【目次】

みんなのアクション

・「なんとなく」不安でも大丈夫。部署の壁を超えた協働が生み出す、若い女性のためのきめ細やかな支援のかたち
・青いアジサイがつなぐ、人と人。「アジサイ祭り」で深まる地域の絆
・あたたかいまちの魅力を、ぬくもりある音楽にのせて。帰ってきた「おおつか音楽祭」
・彩りと、フラの風をとしまから。「東京フラフェスタin池袋2022」
・豊島区から世界へ。声優ユニット『IBERIs＆』が見据える夢いっぱいの未来地図。
・世代をこえて、受け継ぐ。ガールスカウト東京都第十二団のSDGs達成へのチャレンジ
・子どもたちの自由な発想をアートの力で発信したい。教育プロジェクト「Kids=Artists」
・まちの取り組みの「自走化」に向けたお手伝い。NECプロボノ倶楽部
・きのうも、きょうも、あしたも。ずっと住みたい豊島区へ。「豊島区こども未来国連会議」
・日本伝統文化の魅力を海外へ。多文化共生のまちを創る、NPO法人Fam
・まちのど真ん中で新しいスポーツにチャレンジしよう。「スクールオブアーバンスポーツ」
・健康と地域のつながりを創り出す。スポーツの可能性を拓く「としまスポーツフェスタ」
・すべての人に、ワクワクする学びの場を提供したい。第15回みらい館　大明まつり
・「カルチャー」を生かし、持続可能なまちづくりを。岩手町が進める、これからの自治体連携
・まちをくつろげる空間に。音楽やおいしい香りで満たされるIKEBUKURO LIVING LOOP
・としまのまちで夜空を見上げようビックカメラ主催「皆既月食池袋天体観測会」
・はちみつの味で地域の自然環境が分かる？西武造園の「はち育」とは
・デザインのおもしろさをとしまから世界へ。街中まるごとデザインミュージアム池袋
・地域の絆と希望の光を感じさせる、池袋北口のシンボルへ。生まれ変わった公衆トイレ
・「ワンパク」に遊び、学ぼう！まちに根付く、子どもたちのためのイベント「ワンパクまつり」
・おむすびを通じて、あたたかな心を育む。クリスマスイベント「Xmas Otsuka SDGs Kids」
・銭湯で行う、環境学習。ポカポカの「こんぶ湯」が地域と地球の未来を救う。
・人にも地球にもやさしいまちを目指して。立教大生がとしまから広げる「エシカルの輪」
・すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを。Team DESCENTEのサステイナブルな取り組み
・社会貢献活動をシェアし、新たなコラボレーションを生み出す。「第17回社会貢活動見本市」
・国と言語を超えて、平和を語ろう。2030年、未来の社会を考える第3回国連を支える世界こども未来会議
・「同じ釜の飯を食う」ことで生まれるコミュニティ。まちの公園からシェアをはじめる「防災訓練＆グリーンマルシェ」
・としまに吹くイスラムの風。与えあい、交わす挨拶が異文化を大切にするまちにする
・優しい気持ちのバトンを繋ぐ。心も体もほっとするフラワーショップ「花ゆるり」
・メタバースで体験する「仮想病院」とは？100年時代を元気に暮らす豊島区高齢者クラブ連合会

「なんとなく」不安でも大丈夫。部署の壁を超えた協働が生み出す、若い女性のためのきめ細やかな支援のかたち

2022.06.15

#すずらんスマイルプロジェクト #女性支援 #心と体の健康づくり #多部署連携

[OVERTURE]

新型コロナウイルス感染症の流行や国際情勢の変化など、先行き不透明な状況の中で課題となっているのが、10～20代の若い女性の孤立の問題です。貧困や虐待、予期せぬ妊娠、自殺といったリスクにさらされる女性に寄り添った支援のため、豊島区は2021年に「すずらんスマイルプロジェクト」を発足。日々活動されているメンバーの皆さんに、取り組みの内容や想い、地域への期待について伺いました。

Profile

すずらんスマイルプロジェクト

Suzuran Smile Project

若い女性が抱える問題に対し、さまざまな対策を講じるために設置されたチーム。区役所内の有志の職員が参加しており、部署の壁を超えて活動を進めている。主な取り組みは、女性に向けた相談窓口の案内、区内各所での生理用品の配布、民間の支援団体との意見交換会など。

「なんとなく生きづらい」を「確かな支援」につなげていく――。

10代、20代の若い女性が抱える課題を中心にサポートする、部署横断プロジェクト「すずらんスマイルプロジェクト」。
ピンクを基調とした支援サイトのトップに浮かぶのは、胸元でハートを抱えたかわいらしい女性のイラスト。訪れた人の心に寄り添い、適切なサポートを届けるための工夫が凝らされています。

近野「支援サイトは、不安を抱える女性のための相談窓口を身近に気軽に感じていただけるよう、よりやわらかい表現にこだわり、具体的な内容から相談窓口につながるようにしたり、また温かみのあるイラストもメンバーが手作りしたり……。検討を重ねて、ようやく今のかたちになりました。」

他にも、実際に悩みを抱える方々と向き合う相談窓口への現場訪問や、サポートに関するチラシ作りなど、プロジェクトの活動は多岐にわたります。このプロジェクトを通じて、生理用品や妊娠、福祉の課題など、女性が抱えるリアルな問題と向き合っています。

すずらんスマイルプロジェクトの一部メンバーで行われた意見交換会

田中「プロジェクトメンバーは役職に限らず若年女性の問題に関心のあるメンバーが集まっており、女性特有の心身の問題について率直に話し合える環境です。区役所内のあらゆる部署から職員が参加していて、各々の専門知識を生かして協働できるところも大きな強みですね。若い女性の悩みをどうしたら解消できるのか、日々議論を続けています」

プロジェクト名のすずらんの花言葉は「再び幸せが訪れる」「純粋」「希望」。若い女性が仲間を増やしつつ、希望を持って過ごせるように、活動はこれからも続いていきます。

大矢「公園の整備をはじめ、豊島区の取り組みはとてもユニークで、結果的に老若男女が楽しめる場が広がっていると感じます。誰もが希望を持てるよう、私たちも若い女性との心の距離を縮め、支援の輪を広げていきたいですね」

性別や年齢にとらわれず、誰もが自分らしく過ごせるインクルーシブな場へ。
多くの人が手を取り合って始めた挑戦は、きっとまちの姿をより良く変えていくことでしょう。

[NEWS]

豊島区すずらんスマイルプロジェクト

すずらんスマイルプロジェクトを通じて立ち上げた支援サイト。
つらい気持ち、かかえこまないで … あなたの"なんとなく"を聞かせてください。

関連するSDGs

青いアジサイがつなぐ、人と人。「アジサイ祭り」で深まる地域の絆

2022.06.16

#アジサイ祭り #南池袋1丁目町会 #つながり

OVERTURE

今年で6回目を迎える南池袋1丁目の「アジサイ祭り」。小道に咲くアジサイは、この日のために見事な花を咲かせています。よい天気に恵まれた当日。ちょうど木陰となった会場には、子どもたちをはじめ、近隣の区民の人たちが訪れていました。そんなアジサイ祭りの発起人でもある南池袋一丁目町会会長、當麻 強さんにお話しを伺いました。

Profile

當麻 強

Kyou　Taima

豊島区に60年以上在住。南池袋1丁目会会長を務め、シンガーソングライターとしての一面も持つ。6年前からアジサイ祭りの開催にも力を入れ、アジサイを育てるところから担っている。普段から地域の方に気軽に話しかけ「自ら関わっていくこと」をモットーに、町内の相談役として豊島区の地域の交流にも一役買っている。

丹念に育て上げられた、やさしい青色のアジサイ――。

南池袋1丁目にあるマンションの裏手通りに、アジサイ小道が続いています。新しくマンションができた際に、住民たちの交流のきっかけになればと、當麻さんが育てはじめました。

當麻「都会のマンションだと、どうしても淡泊な付き合いにもなりがちだと思うんです。住民同士、せっかくなんだから仲良くなってほしい。そして、町会が『入りたい場所』になってくれるといいなと想い、企画してスタートしました」

区長とは同年代なのだと語るその笑顔は、とても元気でおちゃめ。
アジサイ祭りに訪れた小さな子どもから大人まで、當麻さんに声をかけます。

當麻「今日のアジサイ祭りに向けて、町会の皆さんと協力して、準備を進めてきました。アジサイがあるから、花を見ながら、楽しんでもらえる。今年のアジサイは過去一番、たくさん咲いています。朝、犬を散歩してる方も足を止めてみてくれるんですよ」

小道にはダーツやヨーヨー釣り、輪なげなど子どもたちが楽しめるミニゲームが並んでいます。浴衣を着て訪れた子どもたちから、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんまでさまざまな人が訪れました。

當麻「声をかけあえるまちがいいなぁと思っています。『知らない』で済ますんじゃなくて、何かあったときにはすぐ誰かに相談できるようなつながりをつくっていきたいです」

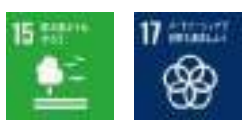
地域住民の交流の場となっているアジサイ祭り。子どもたちを中心にそのつながりはしっかりと育まれています。

當麻さんは最後に、これからのまちの未来について、熱い気持ちを聞かせてくれました。

當麻「としまは、未来に向けてがんばっているまちです。90周年、そして100周年に向けて近隣の町会長たちとも協力して盛り上げていきます。今後さらに、区外から引っ越してきたいと思ってくれる人がもっと増えるような、フォローがしっかりとしたまちにしていけるといいなと思います」

人と人のあたたかなつながりのため、スタートしたこのアジサイまつり。
この小道に咲くアジサイは、来年もその先もずっと変わらずまちの人々の心を和ませてくれることでしょう。

関連するSDGs



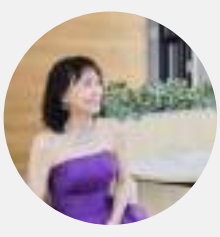
あたたかいまちの魅力を、ぬくもりある音楽にのせて。帰ってきた「おおつか音楽祭」

2022.06.21

#音楽 #ミュージカル #TRAMパル #大塚

[OVERTURE]

2008年からスタートし、毎年6月初旬に行われていた「おおつか音楽祭」。コロナ禍による開催自粛が続いていましたが、感染状況の縮小を受け、3年ぶりの開催が実現しました。出演した劇団の代表理事として、そしてソプラノ歌手の1人として美しく、たのしい音楽で会場を魅了した知久晴美さんに、大塚ととしまに込める想いを聞きました。



Profile

知久晴美

Harumi Chiku

音楽短大声楽科を卒業後、東京オペラ協会にて活動。1990年にNPO法人劇団ムジカフォンテを設立し、現在まで代表を務める。2017年には、豊島区・大塚を拠点としたオペラ歌手によるボーカルユニット「ハモローザ」を結成。歌手、語り部、演出家として、幅広く公演や指導を行っている。豊島区区制施行90周年アドバイザー。

大塚のまちにあふれだす、あたたかい音楽――。

5月末から6月初旬の週末の4日間、大塚駅南口駅前広場・TRAMパル大塚と南大塚ホールで開催された「おおつか音楽祭2022」。大塚にゆかりあるアーティストをはじめ、地域の音楽団体やスクール、演奏家などが出演しました。

披露された音楽は、セッションやコーラス、クラシック、演歌、歌謡曲、ポップスなど、ジャンルはさまざま。開催3日目の昼下がりのステージには、大塚生まれの女性コーラスユニット「ハモローザ」や、池袋を中心に活動する「劇団ムジカフォンテ」が出演し、のびやかな歌声とミュージカルで、観客を魅了しました。

両団体を率いる知久さんは、としまのまち、そして大塚のまちとのつながりが深い、音楽家のひとりです。

知久「ハモローザ結成のきっかけとなったのは、今回の会場の一つでもあるTRAMパル大塚の新設です。大塚で活動していたソプラノ歌手のメンバーたちにも声をかけ、活動をスタートしました」

今年のおおつか音楽祭のコンセプトは、「街に音楽があふれだす」。
音楽配信サービスが普及し、一人ひとりがイヤホンをして、個人で音楽を楽しめる現代。しかし、本来の音楽とは「人と人との間に流れているもの」でした。ぬくもりにあふれる大塚の街だからこそ、人と人とのつながりのもと音楽を楽しんでほしいという思いが背景にあります。

知久「大塚のまちで歌えることに幸せを感じています。豊島区の人は本当に優しくてあたたかくて…。そしてまちへの愛とプライドをもった人たちばかりです」

そう語る知久さんも、区制90周年にもアドバイザー、小学校のSSS（スクールサポートスタッフ）の一面をもつなど、としまのまちを愛する区民のひとりです。

知久「豊島の魅力を未来に伝えるために、芸術の切り口に限らず、食文化、街の建物・建築文化など、いろいろな視点から幅広く、豊島の魅力を伝えていければと思っています」

あたたかい人が集う街、豊島区。
一人でも多くの人にそのぬくもりを共有すべく、来年も温かな音の粒が、大塚の初夏を彩ります。

―― 関連するSDGs ――

彩りと、フラの風をとしまから。「東京フラフェスタ-in池袋2022」

2022.07.23

#フラダンス #池袋西口（公園）

［ OVERTURE ］

としまの初夏の恒例行事として大好評の「東京フラフェスタin池袋」。3年ぶり第20回目となる今年は、池袋西口公園・サンシャインシティ・大塚駅南口前の3会場で開催されました。コロナ禍において再開を願い続け、無事開催にこぎつけた実行委員長加藤竹司さんにお話を伺いました。

Profile

加藤 竹司

Takeshi　Kato

池袋生まれ、池袋育ち。現在は西池袋1丁目町会長と一般社団法人豊島区観光協会の常任理事副会長を務める。「東京フラフェスタin池袋」実行委員長。フラフェスタ立ち上げ当時から運営に携わり、「フラの風をとしまに吹かせる」という想いのもと、イベント運営とまちづくりに力を入れている。

色鮮やかな衣装と、息の合った美しいフラダンス――。

3年ぶりに、第20回目となる「東京フラフェスタin池袋2022」が行われました。

コロナ禍の影響もあり、今回は3会場に、規模を縮小しての開催となった今年。
それでも出演するチームのメンバーをはじめ、応援する多くの人々や多くの観客で賑わいました。

出演したチームは計121チーム、約1,800人。豊島区で活動するチームを中心に、照り付ける太陽の中、フェスティバルは盛り上がりをみせました。30名近くに及ぶ実行委員会を率いる加藤さんは、立ち上げ当時からこのイベントに携わっています。

加藤「以前は6,7会場での開催、さらに優勝の景品としてハワイ旅行をプレゼントするなど、大々的に開催していました。近年はなかなか実現が難しいですが、それでも3年ぶりに開催することができたことをうれしく思います」

サンシャインシティB1噴水広場会場

池袋西口公園周辺には、ハワイアンな衣服やグッズ、飲み物などを販売する出店が並び、いつもより一層鮮やかなまちの姿へと変わっています。

加藤「もともとハワイには妻とよく訪れていました。『フラダンスを広め、ハワイの風を豊島区に』という想いが、フェスティバル運営における原動力ですね」

当初10チームほどの規模からスタートしたイベントは、近年では約250チームから応募があるほどの人気ぶり。感染予防の観点からも制限を行っての開催となります。
各日、夜に行われる参加型イベント「みんなで踊ろう！フラナイト」では、実行委員会のメンバーやまちを訪れた方々と一緒にみんなで踊りを楽しみました。

加藤「フラフェスタを通してまちが元気になるのを見ると、やはりあたたかい気持ちになりますね。としまのまちは大きなビルも増え、どんどん賑わいが増しています。暑い中訪れてくれるみなさんと一緒にこれからもハワイの、そしてフラの風を起こし続けたいです」

初夏のまちの風物詩、フラフェスタ。楽しみにし続ける人たちの想いがこの先も、ハワイの風が豊島区に起こし続けることでしょう。

―― 関連するSDGs ――

豊島区から世界へ。声優ユニット『IBERIs&』が見据える夢いっぱいの未来地図。

2022.08.20

#オーディション #演技・歌・ダンス #マンガ・アニメ文化 #声優

OVERTURE

豊島区から世界へ羽ばたく声優アーティストユニットを発掘するため、81プロデュースが開催した「SUN AUDITION」。応募者は総勢3,347名にも上り、厳しい審査を通過した8名がデビューを掴み取りました。2022年8月20日には、声優ユニット「IBERIs&」として初めてのお披露目イベントを開催。夢への一歩を踏み出したメンバーの皆さんに、地域の活動に懸ける思いや今後の展望について伺いました。

Profile

IBERIs&

イベリス アンド

株式会社81プロデュースとユニバーサル ミュージック合同会社が共同で開催した「SUN AUDITION」の合格者8名による声優ユニット。「IBERIS（イベリス）」の花言葉は「心惹かれる」。多くの人々の心を惹きつけ、ともに歩んでいきたいという思いが込められている。豊島区を拠点とした活動に取り組むとともに、発信力を生かして全国、さらに世界への進出を目指す。

目指すは、声優アーティストとしての輝かしい未来。その夢を掴み取ったメンバーは――。

大勢の観客が集まり、期待と興奮に包まれるサンシャインシティの噴水広場。この日開催されたのは、81プロデュースが企画・制作する「SUN AUDITION」を通過したメンバーのお披露目イベントです。「演技・歌・ダンスの全てを兼ね備えた、かっこいい声優アーティストユニット」の発足を目指して行われたこのオーディションでは、3,000名を超える応募が集まり、数々の審査を経て8名のユニットが誕生しました。

応援にかけつけた高際副区長からは「豊島区を拠点にどんどん活躍してほしい」と期待を寄せたコメントがありました。

デビューイベントで新曲を含む2曲のパフォーマンスやトークを行ったメンバー（池田百々香、大橋海咲、小川華果、鈴木日菜、園田れい※、西尾桃子、三波春香、浜崎七海）たち。終演後も感動冷めやらぬまま、生き生きと感想を語ります。

西尾「最初は緊張していましたが、皆さんからの温かい応援に勇気をもらい、楽しんでパフォーマンスできました。今となっては、もっとステージに立ちたかったと思うぐらいです！」

大橋「グループ全員を推してもらえる、応援してもらえるような存在になれたらいいなと思います」

デビュー後に彼女たちの活動拠点となるのは、マンガ・アニメの聖地でもある豊島区。全国各地から参加するメンバーも、区に対しては特別な思い入れがあると言います。

池田「高校生の頃はコスプレイヤーとして活動しており、いつか池袋のイベントに参加したいと考えていました。大学受験で上京した際、立ち寄った思い入れの強いある場所ですね」

小川「これからは地域でのライブやイベントを積極的に行って、住民の皆さんの身近な存在になりたいです！」

ゆくゆくは国内に留まらず、世界での活動も目指します。大きな夢のスタートラインに立った今、彼女たちの勢いはとどまるところを知りません。

三波「声優として、大好きな女児向けアニメで演じることはメンバーみんなの憧れです！」

浜崎「ユニットとしても、いつか全国でのライブツアーや地方での凱旋公演ができる規模へ成長したいですね」

鈴木「世界中の人々に愛され、No『IBERIs &』、No Lifeと言ってもらえる存在になることが目標です」

豊島区から始まった、唯一無二の声優アーティストユニット『IBERIs &』。
これからその素敵な声やダンスが、としまのまちで見られることでしょう。

※体調不良により、今回のイベントへの出演は見合わせ。

関連するSDGs

世代をこえて、受け継ぐ。ガールスカウト東京都第十二団のSDGs達成へのチャレンジ

2022.09.19

#ガールスカウト　#子ども未来国連　#としまの未来

OVERTURE

豊島区で15年間、活動している「ガールスカウト東京都第12団」。今年の1月に開催された『SDGs未来都市！子ども大使スペシャルイベント』に参加するなど区に関連するイベントにも参加するほか、ウクライナ支援活動や緑化活動などにも日々取り組んでいます。ご自身も子どもの頃からガールスカウトに参加し、現在も指導者として活動に取り組む五十井八恵子さんにお話を伺いました。

Profile

五十井 八恵子

Yaeko Ikai

ガールスカウト東京都連盟の約90ヵ団の地域グループの中で、第12団の団委員長を務め、指導を行う。自身も小学生低学年の頃から、ガールスカウトの活動に参加。豊島区近隣地域の大人、子ども含めた約50名のメンバーとともに日々活動に取り組む。

「子どもたちがのびのびと育つとしま」の姿とは――。

9月の初旬、区制90周年記念事業のシンボル事業の1つである「SDGsアイデアコンテスト」に応募するためにアイデアを考える子どもたちの姿がありました。「住み続けたくなる未来の豊島区」をテーマにアイデアが募集され、2022年9月23日「豊島区こども未来国連会議」で子どもたちが未来のまちの姿について話し合います。

アイデアを考えるガールスカウト東京都第12団の子どもたちの表情は、真剣そのもの。実は、当日集まったガールスカウトメンバー全員がSDGsを既に知っており、子どもたちの向き合う姿に大人たちも身が引き締まります。

9/23豊島区こども未来国連会議に参加すべく、SDGsアイデアコンテストにチャレンジ

豊島区SDGs未来都市推進課の職員がSGDsやアイデアコンテストの概要を解説しました。

五十井「第12団ではジェンダー問題・環境問題への問題提起と実践を、何年も前から幅広く取り組んできました。特に印象に残っているのは、豊島区でも多くの人が避難した大雨被害の後のこと。50年に1度といわれる大雨が『なぜ毎年』来るようになったのか。ガールスカウトの活動の一環としてその原因をみんなで調べました」

勉強会を開催し、メンバーみんなで地球温暖化を止めるためにどうしたらいいのか。「電気を無駄遣いしない」「ペットボトルごみを減らそう」など自分たちにできるさまざまなアイデアを考えたと言います。

五十井「ガールスカウトの活動の行き着く先は、SDGsにつながっています。数年前に豊島区にSDGs特命大使の制度ができた際は、迷わず参加しました。昔は『人を助ける』がガールスカウトの目標でしたが、今はそれも当たり前。『自ら考えて、行動を起こす』ことがとても大切です。ガールスカウトは、子どもたちに体験を通じて自ら学ぶ場であり続けたいですね」

自身もガールスカウトに参加し、リーダーとしても活動を続けてきた五十井さん。団委員長の今は、メンバーの子どもたちが幼稚園児から大学生になりリーダーとして成長する姿を見て、大きな喜びを感じるそう。世代をこえて、持続可能な社会を目指すアクションが受け継がれています。

五十井「豊島区のすてきだなと思うところは、子どもがのびのびと育つまちであること。これからもさらに『子どもがやろうとすることを応援するまち』であり続けてほしいなと思います」

ガールスカウトの前向きなアクションが、これからのとしまの未来をさらに鮮やかに彩ることでしょう。

NEWS

ガールスカウト東京都第12団の「活動記録」をブログで紹介

ガールスカウト東京都第12団の活動ブログ。日曜日に実施される活動の内容を紹介しています。

関連するSDGs

子どもたちの自由な発想を アートの力で発信したい。

教育プロジェクト「Kids=Artists」

2022.09.20

#アート #子ども #コラボレーション

[OVERTURE]

サンシャインシティのSOLARIUMをはじめ、としまのまちのさまざまな場所に鮮やかなアート作品が展示されています。ライオンや音楽隊などさまざまなモチーフが描かれたこれらの作品は、子どもたちとアーティストがコラボし、即興のアート作品として仕上げられたもの。主催者である宮副信也さんに、プロジェクトの背景や開催への思いを伺いました。

Profile

宮副 信也

Shinya Miyazoe

豊島区生まれ、豊島区育ち。池袋にある平和堂薬局の4代目。株式会社信ホールディングス、キノセイ合同会社にて不動産業を営み、2019年にはブルーボトルコーヒー池袋カフェの誘致に成功。2020年にSTUDIO2O1を立ち上げ、2022年5月より「Kids = Artists ー全てのキッズはアーティストー」のプロジェクトをスタートした。

子どもの絵ってまるでアートみたい――。

そんな風に感じたことはありませんか？子どもたちの自由な感性を生かし、プロのアーティストとコラボする、そんなすてきなプロジェクトが池袋で行われています。

「Kids=Artists　―全てのキッズはアーティスト―」は子どもたちが自由な発想で絵を描き、プロのアーティストが仕上げをして、1つの作品を仕上げるプロジェクト。その後、完成した作品はとしまのまちのさまざまな場所に展示され、見る人たちの目と心を楽しませています。

宮副「イベントを通じて完成する作品はまさに多様で、1つとして同じものができない点が魅力です。同じアーティストが仕上げをしても、参加する子どもたちが異なるため全く違う作品になります。細部に注目すると、その違いをより楽しんでいただけると思います」

作品展示を行っていたサンシャインシティ「SOLARIUM」

9/17（土）に行われた「IKEBUKURO LIVING LOOP」でもイベントを開催

イベント後の作品展示は子どもたちにとって最もうれしいポイントなんだとか。

宮副「親御さん、先生、ご近所の方など、多くの人に作品を見てもらい、『すごいね！』と褒めてもらうことで、子どもの自己肯定感が育まれていきます。自己肯定感に裏付けられた自信が持てれば、まわりの人の個性を受け入れる寛容さも自然に身につくと考えています」

コロナ禍で閉塞感を抱えている人、そしてまちを元気づけたいと考えた宮副さん。7年間の海外経験を経て感じた「もっと自由に個性を活かせる社会を実現したい」という思いのもと、このプロジェクトを立ち上げました。

宮副「帰国したのは南池袋公園ができた直後。どんどん進化する地元のすがたを見て、『自分も街のために何かをしたい』と思い、まちづくりに参加するようになりました。これからも多くの子どもたちに参加いただき、いろんな方々に見ていただきたいです」

9/17（土）に行われた「IKEBUKURO LIVING LOOP」でも、新作を作成。
RACINES FARM TO PARKやHareza池袋内パークプラザ、WACCA IKEBUKUROでも子どもたちの作品を楽しめます。
街歩きのおともに子どもたちが秘める「アートな感性」に触れてみてはいかがでしょうか。

[NEWS]

合言葉は、「子供は未来のたからもの」

「Kids = Artists」のイベントサイト。
個性豊かな4名のアーティストとそれぞれに用意した大きなキャンバス。
最初は子どもたちに自由にキャンバスの上に描いてもらい、
アーティストがライブペイントパフォーマンスで作品を完成させます。

関連するSDGs

まちの取り組みの「自走化」に向けたお手伝い。NECプロボノ倶楽部

2022.09.30

#プロボノ #IKEBUKURO LIVING LOOP #企業の活躍

OVERTURE

皆さんは「プロボノ」という言葉をご存じでしょうか？プロボノとは、各分野のプロフェッショナルが、職業に関連したスキルや知識を、無償で社会に提供する活動のこと。日本電気株式会社（NEC）は2010年、国内企業としてはじめてプロボノをスタートしました。としまのまちでも活動する「NECプロボノ倶楽部」のリーダー、川本文人さんにその活動と取り組みの意義を伺いました。

Profile

川本 文人

Fumito KAWAMOTO

NEC社内の有志が集い、自主的にプロボノを行う「NECプロボノ倶楽部」のリーダーを務める。幼いころからとしまのまちに馴染みがあり、豊島区内では約2年前から活動をスタート。まちの人々と一緒にイベントなどに参加し、子育て支援の取り組み活性化のきっかけづくりを行っている。

朝早くから手作りロケットや模造紙の手配など、せっせと準備を進める真剣な大人たち――。

9月中旬、池袋東口グリーン大通りをメイン会場として行われた「IKEBUKURO LIVING LOOP」。イベント当日の朝、サブ会場であるサンシャインシティでは、子どもたちに全力で遊べる場所を提供するイベント「Sunshine City PLAYPARK（サンシャインシティプレーパーク）」の準備が行われていました。

グリーン大通りでも数多くの企業・団体が出展

さまざまな団体がブースを出展するなか、会場内の複数のスペースで「遊び場」を用意していたのは「NECプロボノ倶楽部」の皆さん。

川本「『NECプロボノ倶楽部』の活動には、500名を超える社員が参加しています。業務スキルを活かしたオンラインツールの使い方講座のほか、子ども食堂の支援や子どもが喜ぶハロウィンイベントの企画、高齢者の方々とのおさんぽ運動などその取り組みはさまざま。コロナ禍をきっかけに、何か自分たちにできることはないかと考え、社員に呼びかけプロボノを進めてきました」

ブースの一角にある人口芝の上には、木でできたいろいろなおもちゃが並んでいます。プレーパークがスタートする11時前には、すでにおもちゃで遊び始めるたくさんの子どもの姿が。

川本「豊島区の子ども家庭支援センターには、子どもが喜ぶおもちゃがたくさんありました。基本はセンターの中でのみ使用されていたのですが、『もっと活用しないことにはもったいない！』と思い、今回お声掛けをして一緒にブースを出展しました。スタッフの方々から『イベントに参加して本当によかった』という声が聞けたことが非常にうれしいポイントでしたね」

としまのまちづくりをNECが持つリソースでサポートしたいという想いのもと、プロボノをはじめとした各種支援を行うNEC。

川本「これからもオール企業としまの一員として、さまざまな角度から活動の『自走化』の後押しをしていきたいです。区民の方々とも良い関係が築けてきましたし、今後はさらにまちを盛り上げるべく、子育て支援に留まることなく、活動の幅を広げていきたいです」

区外の企業からのあたたかい想いと、手厚いサポートのもと、としまのまちはさらなる変化を遂げていきます。

関連するSDGs

きのうも、きょうも、あしたも。「豊島区こども未来国連会議」ずっと住みたい豊島区へ。

2022.09.30

#豊島区こども未来国連会議 # 子ども # SDGs # 次世代リーダー

[OVERTURE]

国境の垣根を越えて子どもたちが未来の世界について語り合う「こども未来国連会議」の豊島区版として行われた「豊島区こども未来国連会議」。
自治体独自の「こども未来国連会議」は全国初の試みであり、豊島区の未来の姿をグローバルな視点とローカルな地域住民の視点の2つで描きます。次代のリーダーの存在を期待させられる、当日の子どもたちの声や様子をご紹介します。

「いま、豊島区には何が足りない？」――。

全国市区・SDGs先進調査で第9位に輝いた豊島区。区が掲げる「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」のスローガンのもと様々な政策が行われてきました。区制90周年を迎えた昨年、記念事業の一環として行われたのが「豊島こども未来国連会議」です。
区制100周年に向けて、「住み続けられる未来の豊島区」というテーマのもと、豊島区役所にて区内の小学生約50人が自由なアイデアを語り合いました。

最初に行われたのは各チームに分かれてのワークショップです。序盤は初対面の相手に緊張する様子が見られましたが、徐々にコミュニケーションが活発に。「観光で来た人が住みたくなるような街にしたい」「公園や緑が少なくないかな？」など「子どもの目線」ならではの発想はもちろん、「理想の実現のために自分には何ができるか」「大人たちには何をしてもらうか」といった多角的な視点も織り交ぜながら、みんなで協力して発表資料の作成を進めていきました。

続いて行われたのは、豊島区議会の議場にて行われた各チームによるプレゼンテーションでした。議会の厳粛な雰囲気に臆することなく、子どもたちの議論は白熱。質疑応答の様子は本物の区議会議員さながらです。「豊島NATUREプロジェクト」「サステナビリティパークを作る」など、SDGsの観点を取り入れた大人顔負けの斬新なアイデアは審査員も唸るほど。

最優秀賞に輝いたのは「人の流れや需要のあるサービスをAIで予測して都市の効率化を図り、豊島区をスマートシティ化する」という案でした。受賞したチームのメンバーはこのように語ります。

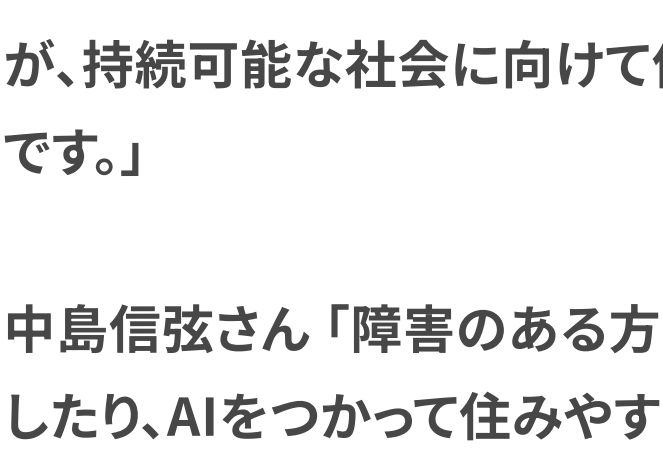
小坂拓磨さん「多角的な視点がいかに大事かを改めて感じました。今地球上で戦争など色々な問題が起きていますが、持続可能な社会に向けて何ができるか考えていきたいです。」

中島信弦さん「障害のある方のために点字ブロックを増やしたり、AIをつかって住みやすいまちにしたり、みんなで助けてあげるという意見を出しました。みんなが住みたいと思えるまちにしたいです。」

最優秀賞に選ばれたチームは今年3月に行われた「世界こども未来国連会議」にも参加しました。前高野区長は豊島区の未来を担う子どもたちに向けてこのように語ります。

前高野区長「SDGs達成の目標年である2030年には、皆さんはちょうどその頃に大人になり、社会の主役になっています。皆さんが考えてくれた未来の豊島区を実現できるよう、一緒に頑張っていきたい」

今後も豊島区では子どもに向けたSDGsの取り組みを強化していく予定です。次世代リーダーたちによる豊島区大改革の日はそう遠くありません。



関連するSDGs

日本伝統文化の魅力を海外へ。多文化共生のまちを創る、NPO法人Fam

2022.10.07

#日本伝統文化 #国際交流 #着付け #生け花 #リメイク

OVERTURE

としまのまちを拠点として、外国籍の人たちに日本の伝統文化体験の機会を届ける「NPO法人Fam」。長年にわたる取り組みが評価され、今では区の後押しを受けて活動の輪を広げています。
9月17日から25日にかけては「日本文化からSDGsを広げよう」と題し、着付け体験、華道デモンストレーション、着物・帯リメイク作品の展示販売などのイベントを開催。イベントの中で得た発見や、豊島区とのパートナーシップについて、参加者の方々からお話を伺いました。

Profile

NPO法人Fam

日本の伝統文化を留学生に体験してもらうべく、約40年前に任意団体として活動を開始。2001年には豊島区の推薦を受けて、留学生受け入れ制度100年記念留学生交流功労者表彰を受賞した。2017年にNPO法人化し、伝統文化を通じた国際友好親善と地域貢献を掲げてさらに活動を拡大。外国籍の新成人のために晴れ着の無料着付け体験を企画するほか、着物・帯のリメイク作品を制作するなど、幅広い取り組みを進めている。

流れるような手さばきで花器に挿し込まれ、凛とした表情を見せる花々――。

2022年9月下旬、1週間にわたって開催されたイベント「日本伝統文化からSDGsを発信しよう」。この日は日本古来の「生花」や自由な発想で表現する「現代華」の魅力を伝えるため、プロの華道家がパフォーマンスを行いました。期間中は振袖・紋付羽織袴をまとって記念撮影できる着付け体験や、着物・帯をリメイクした作品の展示など、多彩な企画を実施。日常ではなかなか味わえない伝統文化の魅力に、多くの人が引き込まれました。

イベントを主催するNPO法人Famは、留学生に日本の伝統文化を体験する場を提供することを目的として、約40年前に豊島区で活動を開始。
訪日外国人の増加を受けてその取り組みをさらに発展させ、今では国際交流・友好親善に貢献する幅広い活動を行っています。コロナ禍で海外との行き来が困難になってからは、国内で文化を未来へつないでいくため、貴重な着物・帯をリメイクした作品の展示・販売もスタートしました。作品の一部は区の障害者福祉施設に通う障害者の方や、フレイル対策センターを訪れる高齢者の方がその制作を担当するなど、人々の活躍の場づくりにも一役買っています。

NPO法人Famの活動に携わってきた参加者は、取り組みの素晴らしさをこう語ります。

「海外から来た若い年代の方々と交流するのはとても楽しいですね。日本独自の文化に対する反応も非常に良く、着付け体験をすると記念撮影に夢中になって時間が長引いてしまうほど」

「体験を通じて、言語の壁を越えたコミュニケーションができていると感じます。外国人の若者が多い豊島区だからこそ、区と連携してより積極的に活動を進めていきたいですね」

海外渡航に関する規制が緩和され、国際交流再開の兆しが見えつつある現在。日本伝統文化の魅力を豊島区から発信することで海外に向けてSDGsを推進しています。NPO法人Famの活動に、多くの人々から期待が寄せられています。

関連するSDGs

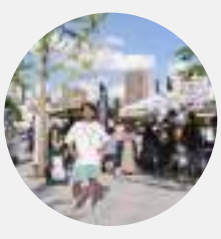
まちのど真ん中で「スクールオブアーバンスポーツ」新しいスポーツにチャレンジしよう。

2022.10.14

#アーバンスポーツ #イケサンパーク #体験

OVERTURE

広いグラウンドや競技場ではなく、都市のさまざまな空間で行う「アーバンスポーツ」を知っていますか？10月1日、イケサンパークで子どもたちを対象に行われたこのイベントは、たくさんの親子連れで大盛況。主催者である鴇崎魚彦さんに、開催に込めた思いや今後の展望を伺いました。



Profile

鴇崎 魚彦

Nahiko Tokizaki

株式会社Xcountry 取締役として、世界各国の魅力的な商品やサービスを国内外に販売する物販事業のほか、地域コミュニティ事業を主に展開。3年前からスポーツエンタメ事業としてアーバンスポーツを広める活動をスタート。2021年6月と2022年4月には、池袋・サンシャインシティにてさまざまなフリースタイルスポーツをミックスさせたバトルイベント「FREESTYLE SPACE」を開催。

体を動かすのって、やっぱり楽しい――！

この感覚は、大人も子どもも変わらないもの。秋晴れの空の下、イケサンパークで行われたイベント「スクールオブアーバンスポーツ」では、大勢の子どもたちが今まで体験したことのない新しいスポーツのスタイルに、興味深々な様子で取り組んでいました。

アーバンスポーツとは、特殊な場所や大がかりな機材を使わず、今住んでいる「都市」の中でできるスポーツのこと。3年ほど前のパフォーマーとの出会いをきっかけに、その魅力を伝えたい！とイベントなどの取り組みをスタートした鴇崎さん。

鴇崎「過去には静岡の三島市や神奈川の横須賀市でイベントを行いましたが、東京都内では豊島区が初めて。ご縁があって、全国一の高密都市である豊島区・池袋でのイベント開催することになりました」

イベントではさまざまなスポーツをパフォーマーに教えてもらえる体験ブースを設置。「パルクール」「ダブルダッチ」「フリースタイルバスケ」「フリースタイルフットボール」「けん玉」「スラックライン」の計6種目が展開されました。

鴇崎「アーバンスポーツは、勝ち負けではなく『楽しむ』スポーツ。パフォーマーも、子どもたちも、一緒になって楽しむからこそ自然と『仲間』になれるんです」

体験会の合間に行われたプロによるパフォーマンスでは、大人も子どもも釘付け。パフォーマンス後の体験会では、なんとか真似してみようと試行錯誤する子どもたちの姿が見られました。

鴇崎「豊島区は、このスポーツにぴったりのまち。今後も継続的にイベントを行い、アーバンスポーツのまちとしての印象を作っていけたらと思っています。グローバルリングでもイベントを行って、豊島区制100周年の頃には『アーバンスポーツの聖地』と言われるくらいにしたいですね」

スポーツの持つ力が、としまのまちをさらに明るく盛り上げていきます。

NEWS

アーバンスポーツ ワンコインレッスン！

イケサンパークを舞台に、不定期で体験会を今後も実施予定です。
（10月開催分はすでに終了）
ご興味のある方はイベント情報をチェックください。

関連するSDGs

健康と地域のつながりを創り出す。「としまスポーツフェスタ」スポーツの可能性を拓く

2022.10.31

#スポーツ #地域スポーツ #障害・ニュースポーツ

OVERTURE

誰もが生き生きと輝くまちを実現するには、こころと体の健康を支えるスポーツの習慣化が欠かせません。豊島区スポーツ推進委員協議会では、日頃からスポーツに親しめるイベントを区内各地で定期的に開催。中でも年1回行われる「としまスポーツフェスタ」は、子どもから大人まで多彩なスポーツにチャレンジする機会として注目を集めています。会長を務める寺門孝史さんに、詳しい活動内容について伺いました。

Profile
寺門 孝史
Takashi Terakado

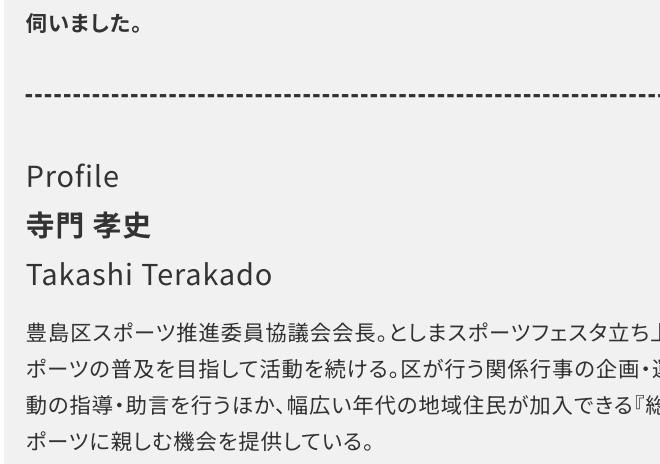
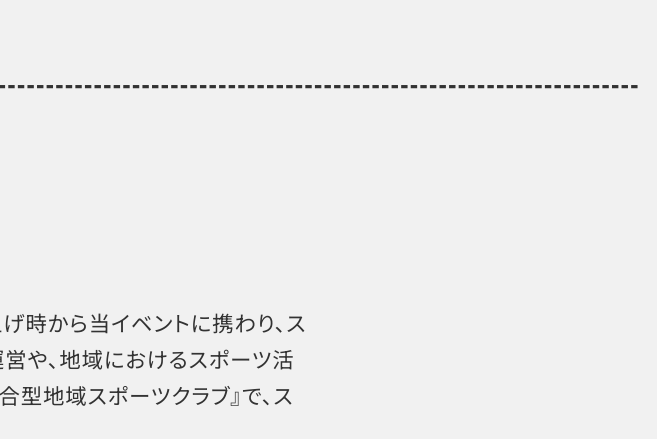
豊島区スポーツ推進委員協議会会長。としまスポーツフェスタ立ち上げ時から当イベントに携わり、スポーツの普及を目指して活動を続ける。区が行う関係行事の企画・運営や、地域におけるスポーツ活動の指導・助言を行うほか、幅広い年代の地域住民が加入できる『総合型地域スポーツクラブ』で、スポーツに親しむ機会を提供している。

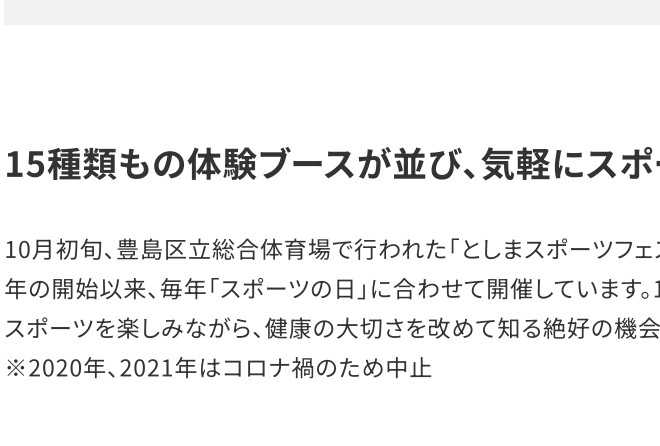
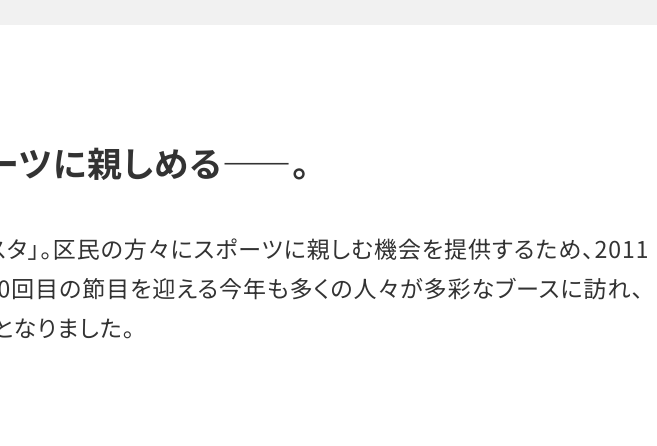
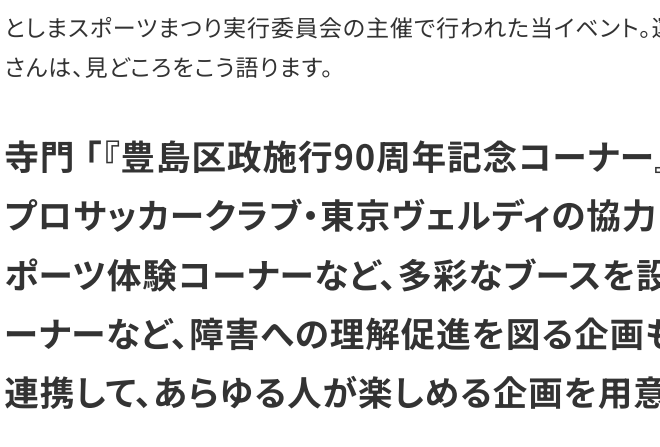
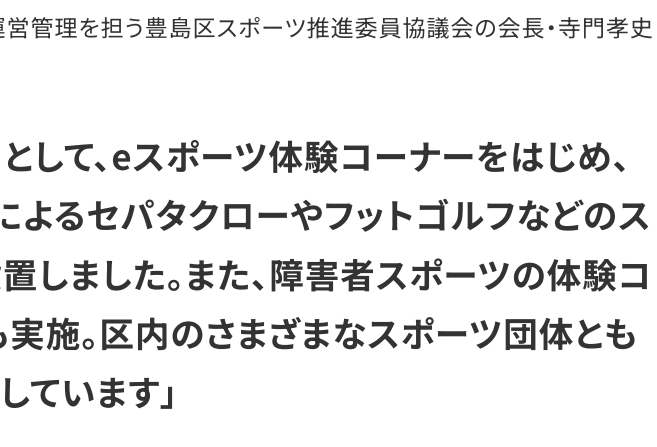
15種類もの体験ブースが並び、気軽にスポーツに親しめる――。

10月初旬、豊島区立総合体育場で行われた「としまスポーツフェスタ」。区民の方々にスポーツに親しむ機会を提供するため、2011年の開始以来、毎年「スポーツの日」に合わせて開催しています。10回目の節目を迎える今年も多くの人々が多彩なブースに訪れ、スポーツを楽しみながら、健康の大切さを改めて知る絶好の機会となりました。
※2020年、2021年はコロナ禍のため中止

としまスポーツまつり実行委員会の主催で行われた当イベント。運営管理を担う豊島区スポーツ推進委員協議会の会長・寺門孝史さんは、見どころをこう語ります。

寺門「『豊島区政施行90周年記念コーナー』として、eスポーツ体験コーナーをはじめ、プロサッカークラブ・東京ヴェルディの協力によるセパタクローやフットゴルフなどのスポーツ体験コーナーなど、多彩なブースを設置しました。また、障害者スポーツの体験コーナーなど、障害への理解促進を図る企画も実施。区内のさまざまなスポーツ団体とも連携して、あらゆる人が楽しめる企画を用意しています」

会場には、親子で一緒に50m走にチャレンジする親子や、このイベントで毎年体力測定をするのだというリピーターの方々をはじめ、会場にはスポーツを楽しむ方々の笑顔があふれていました。

日常生活にスポーツを取り入れてもらうために、豊島区スポーツ推進委員は地域に根付いた取り組みを進めています。

寺門「西巣鴨中学校を拠点として、誰でも参加できる『総合型地域スポーツクラブ』を結成し、定期的に活動しています。そのほかにも、区民ひろばで高齢者の方に筋トレ・脳トレを教えたり、デイサービスで障害者スポーツを実践したりと、取り組みは多岐にわたります。これからも活動を継続し、その縁を通じてまたこのイベントでみんなが集ってくれるとうれしいですね」

からだを動かすことの魅力を伝え、区民のつながりを生み出す。スポーツ推進委員の取り組みが、まちの健康づくりにつながっています。

NEWS

としまスポーツフェスタ（としまスポーツまつり）2022

秋の1日に、楽しくスポーツ三昧！
会場で行われたさまざまなスポーツ体験ブースの詳細情報はこちら。

関連するSDGs

すべての人に、ワクワクする学びの場を提供したい。

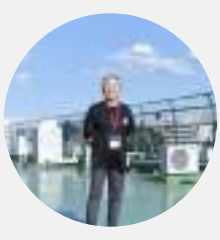
第15回みらい館大明まつり

2022.11.11

#みらい館大明 #大明小学校 #体験

OVERTURE

みらい館大明は、2005年に閉校になった豊島区立大明小学校の跡地を再利用して運営されている生涯学習施設で、まちの交流拠点のひとつです。10月29日（土）と30日（日）の2日間にわたり、第15回目となるみらい館大明まつりが3年ぶりに開催されました。開館当初から館長を務める杉本カネ子さんにお話を伺いました。



Profile

杉本 カネ子

Kaneko Sugimoto

宮城県出身。1974年より豊島区在住。大明小学校にてPTAの活動に注力したのち、2005年よりNPO法人いけぶくろ大明の理事長・みらい館大明の館長を務める。「今ある資源を活かす」ことをモットーに、サスティナブルな運営を行っている。

さて、今日はどんなことを学ぼうか――。

新しいことを知り、できるようになるワクワク感は、何歳になってもうれしいもの。生涯学習施設「みらい館大明」では、絵画や習字、語学・演劇など、有志団体のための活動場所を提供するほか、利用者のリクエストに応えたさまざまな講座やセミナーを開催しています。

杉本「年に1度開催するみらい館大明まつりは、日々の練習の成果を発表する舞台でもあります。教室での作品展示のほか、手作りの食べ物の販売、グラウンドでのパフォーマンスもあります」

しかし、ただ見るだけで終わらないのが大明まつりのポイントだそう。「参加型」をテーマとした今回のお祭りでは、子どもからお年寄りまで、新しいことに挑戦するきっかけをつくりたい、と多くのワークショップや体験教室が開かれました。花・習字・わなげ・社交ダンス・読み聞かせなど、そのジャンルはさまざまです。

杉本「みなさんの生き生きとした姿を見るのが、何よりもうれしいですね。何かをできるようになる“喜び”が、“元気”につながると思います」

今回ならではの豊島区制90周年の特別な装飾も、来場者がお花紙で彩る「参加型」

さらに今回のお祭りでは、としまのまちを360度見渡せる屋上スペースを初開放。屋上へ向かう階段も見どころです。

杉本「上りの階段では開館当時から撮りためた写真を展示し、『過去』を振り返ります。屋上では池袋・豊島区の『現在』を俯瞰できます。下りの階段には子どもたちが描いた『未来』の絵を展示することで、としまのまちへの期待を感じることができます」

昭和49年からとしまのまちに住み、長くまちづくりに携わってきた杉本さん。未来のとしまに、「誰でも受け入れるまち」になってほしいとの思いがあります。

杉本「私たちスタッフは、みなさんをいつも笑顔で迎えることを大切にしています。みらい館大明をはじめ、としまのまち全体が“ウエルカムな場所”でありたいですね」

新たな学びや発見を通じて、元気になれる「みんなの居場所」。としまのまちをもっと温かく、オープンにする拠点が、ここにあります。

関連するSDGs

「カルチャー」を生かし、持続可能なまちづくりを。岩手町が進める、これからの自治体連携

2022.11.17

#岩手町 #SDGs未来都市 #ファーマーズマーケット

OVERTURE

人口約1万2千人と小さな自治体でありながら、農業やスポーツ、文化といった強みを生かして持続可能なまちづくりに取り組む岩手町。2020年度には「SDGs未来都市」にも選定され、豊島区をはじめ、関東圏の自治体とも連携しながらまちの魅力を広く発信しています。イケ・サンパークで開催されるファーマーズマーケットへの出店もその取り組みの1つ。岩手町みらい創造課に勤める阿部智光さんに、岩手町ならではのSDGs推進活動や今後の展望について伺いました。

Profile

阿部 智光

Tomomitsu Abe

岩手町みらい創造課政策推進係係長。SDGsを切り口とした活動をはじめ、地方創生や企業誘致、産業活性化など幅広く取り組む。岩手町の文化の日である11月1日の前後を中心に、としまのまちで広く岩手町の魅力発信に努める。

晴れ渡る空の下、店先に並べられたみずみずしい野菜たち――。

20を超えるテントが立ち並び、多くの人でにぎわう週末のイケ・サンパーク。11月初旬、岩手町の出店ブースでは地元の新鮮な野菜や果物が販売され、訪れる人の注目を集めていました。

岩手町は岩手県のほぼ中央に位置し、年間約135億円もの農業生産額を誇る県内有数の食糧生産地です。そして、『農業（Agri-culture）』のほか、ホッケーに代表される『健康・スポーツ（Sports-Culture）』、「石神の丘美術館」を中心としたまちなかの彫刻展示などの『森林・ものづくり（Craft-Culture）』などの3つのカルチャーが息づいています。2020年度には、豊島区と同じく「SDGs未来都市」にも選定されました。

岩手町みらい創造課の阿部さんは、こうした活動の輪を広げるために、ブース出店などの情報発信が欠かせないと語ります。

阿部「ファーマーズマーケットでの物販などを通じて、まずは岩手町が持つ魅力を感じていただけるとうれしいです。岩手町のキャベツは甘みが強く、今日も売れ行き好調でした」

「アート・カルチャー」を重視したまちづくり、そして同時にSDGs未来都市に選定されるという共通点があり、交流がスタート。豊島区長と岩手町長の対談が行われたほか、12月には岩手町で開催されるＳＤＧｓシンポジウムも予定されており、そのつながりは深まっています。

阿部さんは、豊島区とともに描く未来に大きな期待を抱いているといいます。

阿部「区制90周年という長い間、まちづくりに尽力されてきた豊島区の方々への尊敬の念を改めて感じています。『SDGs未来都市』そしてモデル事業であるとしまの胸をお借りしつつ、まちづくりを進めたいなと思っています。ゆくゆくは連携協定を結び、より良い関係を一緒につくっていきたいですね」

カルチャーを通じて地域への愛着を育み、行動につなげていく。豊島区と岩手町の取り組みが、地方創生の新たな道筋を示すかもしれません。

関連するSDGs

SDGs未来都市 豊島区

TOSHIMA International City of Arts & Culture | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

まちをくつろげる空間に。音楽やおいしい香りで満たされる IKEBUKURO LIVING LOOP

2022.11.22

#IKEBUKURO LIVING LOOP #リビング #まちづくり #都市整備部

[OVERTURE]

池袋駅東口グリーン大通りに並ぶ、たくさんのキッチンカーや屋台。なかにはハンモックやクッションも並び、さながらリビングのようです。にぎわう街中を、くつろげて居心地の良い空間へ。そんなプロジェクト「IKEBUKURO LIVING LOOP」の企画運営を担う株式会社nestの取締役、宮田サラさんにお話を伺いました。

Profile

宮田 サラ

Sara Miyata

学生時代としま会議に関わったり、新卒の時に豊島区で暮らし、働いたことをきっかけに、豊島区のまちづくりに携わるようになる。「まちなかリビングのある日常」というコンセプトのもと、株式会社nest／株式会社グリップセカンド／株式会社サンシャインシティ／株式会社良品計画の4社で企画運営する「IKEBUKURO LIVING LOOP」において、その中核を担う。

「まちなかリビング」のある日常――。

11月4日（金）～6日（日）にかけて行われた、「IKEBUKURO LIVING LOOP」のスペシャルマーケット。90周年のとしま文化推進期間のタイミングで開催されたこの3日間には、累計150もの店舗が参加しました。

宮田「はじめて一人で暮らしたまちが、としまでした。南池袋公園がリニューアルされるタイミングで、区民のひとりとしてまちなかでの暮らしやまちの未来を考え、日常がもっと楽しくなったら、とマーケットなどを実施してきました」

マーケット開催前は法令の規制によって歩道上にキッチンカーを出すことも難しかった、池袋のまち。マーケット内でさまざまな実験を重ねて、安全性の担保や設備の検討なども行い、ストリートの空間デザインにも繋げました。電気・水道の整備などが進み、出店できるお店の種類も増えましたと言います。

宮田「まちなかにおける地域の人たちの行動を、どのように変えていくのか。現在グリーン大通りに設置しているストリートファニチャー（※）の常設化に向けても実験や調査を行なっています。什器の提供や告知の効力、ボランティアスタッフ、拠点同士の連携など、さまざまなかたちで数多くの企業や人たちが協力してくれています。今年のスペシャルマーケットではみなさんから『まちなかリビング』な写真を募集し、展示する企画も行いました」

マーケット中のまちなかにはおいしいごはんやドリンクを片手に過ごす人々の、やわらかい笑顔が溢れています。IKEBUKURO LIVING LOOPでは、ストリートファニチャーにサンシャイン劇場の廃材を活用したり、マーケット内でフードドライブ回収の拠点を設けるなど、地域の関係性やまちの持続可能性も意識されています。

行き交うスタッフや出店者の方々と、フランクに言葉を交わす宮田さん。その姿からはまちに息づくゆるやかであたたかな関係性が見えます。

宮田「まちなかで活動している方々は、個性あるおもしろい方ばかりです。大企業もまちの商店も、皆がまちという舞台でつながっている。くつろげる日常をつくっていくことに楽しさを感じながら、これからもまちを盛り上げていきたいです」

池袋の「日常」はよりくつろぎやすい形へ、これからも変化していきます。

※ストリートファニチャー：街の歩道や道路に沿ってさまざまな目的で設置される物や設備の総称

[NEWS]

IKEBUKURO LIVING LOOP

2017年から池袋東口グリーン大通りと南池袋公園をメイン会場として開催してきた「池袋リビングループ」のマーケット。訪れた人たちが、まるで自分の家のリビングのように居心地良さそうにくつろいだり、自然と食事や会話を楽しんでいる風景が生まれました。

関連するSDGs

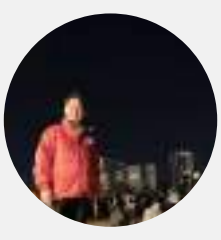
としまのまちで夜空を見上げよう ビックカメラ主催「皆既月食池袋天体観測会」

2022.11.24

#天体観測 #皆既月食 #望遠鏡 #ビックカメラ

OVERTURE

2022年10月に「豊かなまちづくりのためのパートナーシップ協定」を豊島区と結んだ株式会社ビックカメラ。その取り組みの第一弾として、11月8日「皆既月食池袋天体観測会」が開催されました。イベント担当として、当日の会場セッティングや案内なども務めた久保智義さんにお話を伺いました。



Profile

久保 智義

Tomoyoshi Kubo

ビックカメラ経営企画本部店舗開発部課長。ビックカメラ池袋店に配属され30年を迎える。当取り組みのほかにも、池袋保健所からと連携した「母子手帳発行時のマタニティフォト撮影」や「ハロウィンのコスプレ企画」など、地域に根差した取り組みを実施している。

442年ぶりの天体現象を観測しよう――。

「皆既月食と天王星食」が同時に起きた11月8日。「皆既月食池袋天体観測会」の会場であるイケ・サンパークには、多くの人が集まっていました。ビックカメラが主催する当イベントには、肉眼では観察することが難しい細部まで見られるよう40台近い双眼鏡のほか、大きな天体望遠鏡が用意され、大型テレビにその映像が映し出されていました。

久保「『豊かなまちづくりのためのパートナーシップ協定』を結んだ後、取り組みの第一弾として真っ先に候補としてあがったのが天体観測会でした。待望のイベントを、豊島区90周年のタイミングで実施できるということで、幸運なめぐり合わせを感じています」

ビックカメラでは、2019年の夏にも天体観測会を開催。コロナ禍により開催できない年が続きましたが、ついに第2回が開催される運びとなりました。

久保「このめずらしい天文現象を一目見ようと、予想を大きく上回る1400人以上の方々が足を運んでくださいました。会場のセッティング時点で来場された方々からお褒めの言葉をいただき、やりがいと喜びを感じますね」

会場にいる子どもも大人も、目を輝かせながら夜空を見つめます。双眼鏡や大型テレビの前には、月が欠ける様子をじっくり観察しようと多くの人が集まりました。月が完全に隠れるタイミングには、子どもたちがカウントダウン。赤く染まる月の姿に心を躍らせていました。

久保「長くこのまちで働いていますが、豊島区は新しいチャレンジを積極的に行う文化があると実感しています。今後はより連携を深めて、豊島区ならではの魅力的な取り組みを実施・発信して、まちを盛り上げていきたいです」

まちと企業の強いきずなの輪。
これからもこのつながりの輪をさらに広げ、未来を照らし続けます。

関連するSDGs

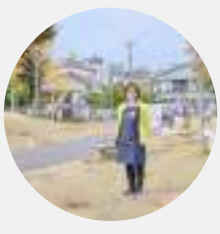
はちみつの味で地域の自然環境が分かる？西武造園の「はち育」とは

2022.11.29

#雑司が谷公園 #環境教育 #みつばち

OVERTURE

「人」と「みどり」のより豊かなまちづくりを目指す西武造園株式会社は、2022年11月、地球の自然環境の歴史やみつばちの生態などを体験的に学ぶ環境教育イベントを豊島区・雑司が谷公園で開催しました。今回は、同社営業部プロモーション課で活躍する古橋美紀子さんに、イベントに込めた思いやとしまのまちづくりに対する期待について伺います。



Profile

古橋 美紀子

Mikiko Furuhashi

西武造園株式会社営業部プロモーション課に所属。2022年3月、同社が「豊島区国際アート・カルチャー特命大使／SDGs特命大使」に参画したことをきっかけに、豊島区内での環境教育イベントの企画・運営・広報活動などを担当。子どもたちを対象に、自然環境やSDGsについて考える機会を提供している。

働き蜂が一生をかけて集める蜂蜜の量は、一体どれぐらいだと思いますか？――。

スタッフの問いかけに、真剣な表情で考え込む子どもたち。この日、雑司が谷公園で開催されたのは、「みつばちのヒミツ」をクイズ形式で学ぶプログラムです。その他にも、46億年に及ぶ地球の歴史を460メートルの距離に置き換えてたどる「出張！富良野自然塾 46億年 地球の道を歩こう！」や、みつばちの蜜源となる植物を自宅でも簡単に育てられる「たねダンゴ」作りなど、ユニークな企画がセットで行われました。

古橋「みつばちの行動範囲は半径2～3キロメートルほどで、その区域に咲く花から蜜を集めます。花の種類や季節によって色・味が変わるはちみつ。その味覚を通じて、地域の自然を新しい側面から学ぶことができるんです」

イベントを主催する西武造園株式会社は、2022年現在全国83ヵ所・566施設の都市公園の管理運営に取り組んでいます。その中でも、本社がある豊島区ではかねてから公園・学校・公共施設などの緑化を担当しており、地域とのつながりが深いのだとか。

古橋「本社がある東長崎の商店街は、とてもアットホームなまち。今回、雑司が谷公園を会場に選んだのも、環境の素晴らしさはもちろん、落ち着きのある雰囲気を実感できたからです」

イベントの開催までにも、地域の人々との交流を通じて新たな発見が得られたと、古橋さんは顔をほころばせます。

古橋「周辺にある千登世橋中学校・南池袋小学校を事前に訪問したところ、プログラムに対するご要望やお手伝いの申し出をいただいたんです。イベントの経験を生かして子どもたちが新しいまちづくりを実践してくれれば、こんなに嬉しいことはありません」

楽しみながら自然環境への理解を深め、身につけた知識をまちづくりに生かしていく。西武造園株式会社が生み出すサイクルが、としまの未来につながっていくことでしょう。

関連するSDGs

SDGs未来都市 豊島区

TOSHIMA International City of Arts & Culture | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

デザインのおもしろさを　としまから世界へ。
街中まるごとデザインミュージアム池袋

2022.12.01

#デザイン　#池袋　#サンシャインシティ　#ソラリウム

OVERTURE

国際アート・カルチャー都市構想を掲げ、文化と芸術の力でまちを盛り上げている豊島区。区制90周年を記念した特別企画として、11月1日（火）から6日（日）の6日間にかけて池袋のまち全体をデザインミュージアムにするイベント「街中まるごと－デザインミュージアム－池袋」が行われました。実行委員長であるデザイナー・田中北斗さんにお話を伺いました。

Profile

田中 北斗

Hokuto Tanaka

デザイナー・アートディレクター。池袋にある創形美術学校にて非常勤講師を務め、25年以上としまのまちの観光デザインや文化イベントなどに多数携わる。豊島区国際アート・カルチャー特命大使として、文化や芸術に関わるイベントや取り組みを積極的に実施している。

区民の皆さんとともに、まちを「デザイン」してきた25年――。

池袋に事務所を構えるデザイナー、田中北斗さん。としまとのつながりを尋ねると、「たくさんありすぎるんです」と笑顔。その一つひとつを思い起こして語ってくれました。

田中「はじまりは、1996年頃に手掛けたとしま観光マップのリニューアル。ポップなイメージにしたい、とご依頼をいただき、堅いイメージになりがちな自治体広報のデザインを変えるべく、取り組みました」

その後、ふくろ祭りのロゴ作成や、池袋モンパルナス回遊美術館の立ち上げに関わり、としまとのつながりを深めてきた田中さん。そして、90周年のタイミングで実施されたのが「街中まるごと－デザインミュージアム－池袋」です。

田中「デザインのおもしろさ、そしてウォーカブルなまち・池袋の魅力を伝えるイベントです。ファッションデザイナーのコシノジュンコ氏をはじめ、日本を代表するデザイナーの方々に講演いただきました。街歩きイベントでは各自が一番気に入ったデザインをポストイットにスケッチし、オリジナルの”池袋サインマップ”を作成。『またぜひ開催してほしい！』というお声もいただきました」

D-8各団体トップメンバーによるパネルディスカッション

サンシャインシティ・ソラリウムをコア施設とし、5つのサテライトをつなぐかたちで行われた「街中まるごと－デザインミュージアム－池袋」。日本デザイン協議会（D-8）が掲げる「ジャパンデザインミュージアム構想」のパイロットミュージアムに位置付けられており、その実現に向けた重要な機会となりました。

田中「としまには、何かが生まれ、育ち、そして巣立つための豊かな土壌があると感じます。アイデアを『おもしろい！』と受け入れ、積極的に盛り上げようとしてくれる区民の方々の存在が大きいですね。今後もとしまでの取り組みを続けていき、将来的にデザインの魅力が日本全国、そして世界中に伝わっていくとうれしいです」

新たなデザインを生み出し、育てるまち・としまへ。国際アート・カルチャー都市として、としまの土壌はこれからもクリエイティブの芽を育みつづけます。

関連するSDGs

地域の絆と希望の光を感じさせる、生まれ変わった公衆トイレ 池袋北口のシンボルへ。

2022.12.01

#ウイトピア #ウイロード #アート

OVERTURE

池袋の東西をつなぐ公共地下道「ウイロード」。老朽化による「暗い、汚い、怖い」イメージを払拭するため、2019年に壁一面に装飾を施す大胆な再生事業が行われました。さらに、2022年からはウイロード西口出口付近にある公衆トイレ「ウイトピア」の改修がスタート。一体感ある美しい壁画と壮大なオブジェによって、鮮やかな変身を遂げています。制作・監修を務めた美術作家・植田志保さんに、改修に込めた想いや新しい施設の特長を伺いました。

Profile

植田 志保

Shiho Ueda

美術作家。色と色の出合いによって生まれる動きを捉えた作品群『色のすること』や、対話を通して記憶や意識の奥底に潜む色を見いだす即興描画『In a Flowerscape』など、色に立脚した表現活動を幅広く行う。2019年に池袋駅公共地下道「ウイロード」の再生に参画し、公開制作・総合監修を担当。

天高く広がる大きな羽と、壁一面に描かれた鮮やかな色の渦――。

池袋駅西口でひときわ目を惹くのが、パステルカラーで彩られた公衆トイレ「ウイトピア」。設置から27年が経ち「暗くて怖い」「女性が入りづらい」といった問題を抱えていた建物を、豊島区制90周年記念事業の一環として全面的に改修。約1年に及ぶ制作期間を経て、2022年10月末に完成記念祝賀会が行われました。

ウイトピアの制作・監修を務めた美術作家・植田志保さんは、改修に込めた思いをこう語ります。

植田「公開制作の手法を取り、1日3〜4万人ほどが通るウイロードで、まちの方々と交流しながら作業を進めました。屋上のオブジェ『ひかりの羽』は、池袋『ふくろ祭り』で担がれる御神輿の上にある鳳凰からインスピレーションを得たもの。子どもたちや区民の皆さんとともに、色とりどりのロープで編み上げ地域の人々の絆や街の温もりも表現しています」

ウイトピアのテーマは、「うえを向くことができる再生へ」。トイレ内部は、ウイロードの壁面にも用いられた漆喰を使って塗装。また、エントランス・男子トイレ・女子トイレにある3つの天窓を「チャームポイント」と捉え、描画することでより一層華やかによみがえらせています。

植田「まちとともに成長できるよう、壁に直接原画を描き込んでいることも特徴です。コピーではない『生』の作品を残すことで、大切に手入れしようと思ってもらえるのではないでしょうか」

ウイロードは現在、区民の手により清掃活動が自主的に行われています。祝賀会にはまちづくりに携わってきた区民も数多く参加。ほがらかな雰囲気の中、高野区長が祝賀会の最後を想いのこもった言葉で締めくくりました。

高野区長「『ここを改修しなければ池袋の戦後は終わらない』と危機感を感じてきました。私が推し進めてきたまちづくりの原点はここにあります。皆さん一人ひとりの力によって悲願が叶い、まちが大きく変わってきたことに心から感謝します」

ウイトピアは新たな池袋の「再生」の象徴として、まちを彩り続けることでしょう。

関連するSDGs

「ワンパク」に遊び、学ぼう！まちに根付く、子どもたちのためのイベント「ワンパクまつり」

2022.12.01

#ワンパク #子ども #まつり

OVERTURE

イケ・サンパークの近くに位置する、朋有小学校。いつもは運動をする場である体育館が、この日だけは様変わりします。こどもたちが元気いっぱいに遊び、さらには大人たちと共に学ぶ「お祭りの会場」として、賑やかな様子に。
記念すべき第50回を迎える「ワンパクまつり」の運営を担う委員長の富澤弘治さんにお話を伺いました。

Profile
富澤 弘治
Hiroharu Tomizawa

としま子どものつどい実行委員会委員長。ワンパクまつりに携わる100名近くの区民たちと一緒に運営を行う。30年近く前から、豊島区に移住した外国人の方々との交流の機会として「国際交流のおみこしを担ぐ会」にも運営側で参加している。

子どもたちに遊べる場所をつくってあげたい――。

毎年としまのまちで11月23日に行われるイベント。それが「としま こどものつどい：ワンパクまつり」です。50年前、余り遊ぶ場が充実していない状況を改善するために、スタートしたこのお祭り。3年ぶりの開催で第50回を迎えた今回はあいにくの雨模様ですが、それでも多くの子どもたちが集まりました。

富澤「木工教室や世界遺産クイズ、消防署コーナーのほか、ご当地ヒーローであるフクロウ戦士トシマッハショーなど、さまざまなコーナーを用意しています。今日は豊島区の防災関係者も多く来ており、公共団体と関わることによる学びの場にもなっています」

応援にかけつけた大人たちからのメッセージのあと、ボーイスカウト第７団・17団の子どもたちによる「ワンパク宣言」が行われ、ワンパクまつりはスタート。体育館だけでなく、一部教室や廊下にも分かれ、子どもたちはいっぱい遊び、いっぱい学び、時間も忘れるほど夢中でした。

富澤「参加するだけでなく、つながりが生まれる『地元に根付いた活動』を続けていけると嬉しいです。そういった意味で、この祭りは子どもたちの発表の場にもなっていることがポイント。自ら一歩前に出て、新しいつながりを生む。そんな機会になればいいなと思います」

長く運営に携わるからこそ、時代による変化も感じているという富澤さん。参加する側と運営する側、きっぱりと分け過ぎず、みんなで集まって盛り上げていくスタイルを残していきたいと思いを語ります。そんな富澤さんに豊島区への期待について、聞いてみました。

富澤「池袋の1日あたりの乗降客数は、世界TOP３に入ります。多様な人が集う場所なだけあり、商業・居住の両面からさまざまな意見がありますが、これからもっと味のあるまちになっていくことを期待しています」

まちの人たちに愛されるこのまつりは、これからもとしまの子どもたちを育み続けることでしょう。

関連するSDGs

おむすびを通じて、あたたかな心を育む。クリスマスイベント「Xmas Otsuka SDGs Kids」

2022.12.25

#おむすび #ぼんご #ウクライナ #クリスマス

OVERTURE

としまのまちには、ウクライナから避難された方々も暮らしています。日本とウクライナの文化交流イベントとして、株式会社小林工芸社主催による「Xmas Otsuka with SDGs・Kids 2022」が開催されました。イベントのキーになるのは、大塚が誇る「ぼんごのおむすび」。イベントで司会を務める小林工芸社・大滝英雄さんにお話しを伺いました。

Profile

大滝 英雄

Hideo Otaki

株式会社小林工芸社、取締役常務執行役員。小林工芸社では「素晴らしい未来を築く為の生き方を提案すること」をビジョンに掲げ、ディスプレイをはじめとした空間の企画デザインを手掛ける。豊島区内では大塚駅前「大塚駅前 ironowa hiro ba Project」の制作に携わり、ごみ拾いプロジェクト「#CleanUpOtsuka」にも積極的に参加している。

おむすびは、としまと世界を結ぶ――。

クリスマスを目前に控えた12月中旬に開催されたイベント。大塚駅から歩いて3分の位置にある会場「Ping-Pong ba」には、親子連れをはじめ、十文字中学・高等学校の生徒たち、そして豊島区に住むウクライナの方々など、約50名が集まりました。

大滝「『Xmas Otsuka SDGs Kids』イベントの開催は今回で2回目。大塚をSDGsの聖地にしようと、まちの方々と一緒に活動に取り組んできました。今年は世界的な情勢も考慮し、避難されてきたウクライナの方々と交流する機会を設けるべくイベントを企画しました」

イベントのポイントは、おいしいおむすび。大塚のまちの老舗「おにぎり専門店 ぼんご」とコラボしたおむすび作りコーナーに、大人たちは興味深々です。女将・ゆみこさんによるサポートのもと、ウクライナの方々もお米を手に取り、そっとつつんでいきます。

そのほかにも、十文字中学・高等学校の生徒によるウクライナ語に触れる異文化交流クイズ、会場に常設されている台を活用した卓球交流、クリスマスならではのピンポンオーナメントづくりなど、催しは盛りだくさん。子どもたちも元気な声でクイズに回答していきます。

大滝「日本人参加者の方々は、シングルマザー・ファザーの方々を中心にお声かけしました。イベントを通じて少しでもみんなが笑顔になり、さらにはとしまと世界がつながるきっかけになればいいなと思います」

自分で作ったおむすびのほか、ぼんご特製のトナカイいなりやウクライナカラーのゼリーなどを頬張り、「楽しかった」「素敵なイベントだった」と子どもたちも大満足な様子。ウクライナの参加者の方からも「戦争を忘れられる楽しい一時をありがとうございます」とのメッセージが寄せられました。

大滝「活動を通じて、としまの街に人を思う心や道徳心が根付くと嬉しいですね」

食・スポーツ・ことば、さまざまなかたち他に類を見ない異文化交流の場となった今回のイベント。小林工芸社が生み出す「空間」には、あたたかな心が息づいています。

2022 Xmas Otsuka SDGs Event

NEWS

ウクライナ避難民のための相談窓口を設置しています

豊島区では、ウクライナ避難民をはじめ、避難者を受入れた親戚の方などのための相談窓口を設置しています。避難をされた方が豊島区で安心して暮らせるよう日常生活の全般に係る相談を受け付け、必要な支援に繋げています。

関連するSDGs

銭湯で行う、環境学習。ポカポカの「こんぶ湯」が地域と地球の未来を救う。

2022.12.27

#妙法湯 #昆布湯 #銭湯 #椎名町

[OVERTURE]

トキワ荘で知られる椎名町駅から、徒歩約2分。商店街の中ほどに現れる妙法湯は、地域の人たちと一緒に盛り上がる、多種多様な催しを精力的に打ち出しています。
今回は、地元の小学生たちと一緒に行う「こんぶ湯」のイベントを通して、店主の柳澤幸彦さんが考える、銭湯から見る地域の未来について伺いました。

Profile
柳澤 幸彦
Yukihiko Yanagisawa

妙法湯三代目店主。豊島区生まれ、豊島区育ち。東京都公衆浴場業生活協同組合理事・広報副委員長、豊島区浴場組合支部長などを兼務後、東京都浴場組合広報委員副委員長を務める。銭湯ファッションショーやサンシャインシティの足湯イベントなどさまざまな企画をプロデュースしている。

バシャバシャと昆布を洗う音が響く、椎名町のとある銭湯――。

海水や海藻を使用した海洋療法「タラソテラピー」という入浴方法。ヨーロッパ圏では親しまれていますが、日本の銭湯ではなかなか馴染みがありませんでした。

柳澤「昆布って肌に良いだけでなく、実は環境にも良いんです。CO2を杉の木の5倍も吸収するうえに、海洋中の微細なマイクロプラスチックをキャッチすることもできる。そんな『昆布の力』を銭湯という場で子どもたちに学んでほしいと、教育活動にも展開をはじめました」

妙法湯を訪れていたのは富士見台小学校の子どもたち。昆布が環境問題の解決にどのように関わるのか、クイズに答えながら学んでいきます。座学の後は、こんぶ湯の準備のため、昆布を洗うお手伝い。自分の身長よりも長い昆布を洗いながら「ゼラチンみたい！」「昆布くさい！」と大盛り上がりです。地域の方々を癒したあとの昆布は、学校の花壇などで使われる肥料へと生まれ変わります。

柳澤「豊島区には現在15軒の銭湯がありますが、時代の変化により数は減少し、どこも生き残りに必死です。地元の方たちを巻き込みながら、やれることをとにかく全部やっていきたいんです」

まちの銭湯の湯気を絶やすまいとする情熱を原動力に、柳澤さんが始めた活動は、実にバラエティに富んでいます。椎名町生まれのクラフトビールの店内販売や池袋モンパルナス時代のアート作品の展示、サウナの新設…。サウナに関する『ミシュランガイド』関係者も、秘かに視察に訪れていました。

柳澤「どんな取り組みもまずはとしまのまちから、と思っています。こんぶ湯の取り組みも他県からもやってみたい、と相談が来るようになりました。がん手術の傷痕が気になる女性たちに向けて、“乙女温泉”というイベントをやったこともあります」

どんな人だって迎え入れてくれて、心も体もポカポカにあったかくなる。ご近所同士のコミュニケーションを大切にする昔ながらの銭湯は、チャレンジングな一面がある場所でした。

—— 関連するSDGs ——

人にも地球にもやさしいまちを目指して。立教大生がとしまから広げる「エシカルの輪」

2023.01.24

#立教大学 #エシカル #SDGs

OVERTURE

「エシカル」という言葉を知っていますか？SDGs達成につながる取り組みとして注目されている「エシカル商品」や「エシカル消費」。地球環境や人・社会に対して配慮された商品や、それらを購入・消費することを指します。今回は、豊島区内でエシカルの輪を広めるべく活動している立教大学3年生の岨下凌拓さんと、指導教員である経済学部の郭洋春教授にお話を伺いました。

Profile

岨下 凌拓

Ryohta　Sowashita

立教大学経済学部経済政策学科3年生。イギリス留学をした際、フェアトレードの理念に深く共感。より広い概念である「エシカル志向」に注目し、豊島区内での認知度・理解度を高めるべく郭ゼミナールの共同研究として取り組みをスタートした。豊島区内のエシカル商品を扱うショップ12店舗にインタビューを実施。近頃は近隣大学とエシカルショップを巻き込み、エシカルに関する勉強会も開催している。

「人に席をゆずったときのような、じんわりと温かい気持ち」――。

「エシカル志向」について、立教大学経済学部の学生である岨下さんはそう表現します。岨下さんをはじめとする郭ゼミナールの学生10名は、2022年4月から豊島区でエシカル志向な取り組みを広げるため、活動しています。

岨下「人にも地球にも配慮された商品を選ぶことで、より多くの方に社会にやさしい行動を実践してほしいと感じています。ゼミメンバーで制作したWebサイトでは、区内のエシカル商品を扱うショップを紹介しており、サイトを通じてショップ同士のつながりもできたと、嬉しいお声をいただいています」

12店舗のエシカルショップへインタビューを実施

豊島区制90周年第4回企業実行委員会でのプレゼンテーション

郭ゼミナール

エシカル班メンバー

それらの店舗が豊島区に出店した理由の1つが「文化やSDGsへの感度の高さ」なのだと、岨下さんは話します。

岨下「文化を大切にするまちには感度が高い人たちが集まるのだなと、実感しています。エシカルタウンとしまを目指して、今後も区民の方とともに取り組んでいきたいです」

さまざまな企業が集まる豊島区の区制90周年企業実行委員会では、自らゼミの取り組みをプレゼンテーション。その後、区内企業から「ぜひ協力したい」と声がかかり、ますます活動の幅が広がっています。

今後はイケ・サンパークで行われるファーマーズマーケットに出店予定。岨下さんのゼミ教員である郭教授も今後の活動に期待を寄せます。

郭教授「郭ゼミの共同研究は、自己完結的なものではなく、社会から応答される活動をモットーにしています。今回の共同研究では、現在豊島区が推し進めている SDGs をより一層発展させるために、「エシカル」をキーワードにデジタルマップを作成しました。多くの区民の方に学生の思いが伝わり、地域の活性化につながれば幸いです」

立教大学をはじめ、大学との連携を強化しながら人にも地球にもやさしいまち・としまを目指して。エシカル志向・エシカル消費の輪がとしまから日本全国へ広がっていく未来は、そう遠くないかもしれません。

NEWS

豊島区エシカル（立教大学郭ゼミナール）

豊島区内のエシカルショップをまとめたホームページです。ゼミ生が1店舗ずつ丁寧にインタビューを行い、エシカル志向な取り組みについて取材しました。
マップも掲載しているので、ぜひ一度豊島区内のエシカルな取り組みが行われている場所を巡ってみるのはいかがでしょうか？

関連するSDGs

すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを。Team DESCENTEのサステイナブルな取り組み

2023.02.13

#スポーツ #デサント #モノづくり

[OVERTURE]

数多くのトップアスリートのパートナー企業である株式会社デサント。4大会連続でオリンピックに出場し、ロンドンオリンピック男子200m背泳ぎ・男子4×100mメドレーリレーで銀メダルに輝いた入江陵介選手（イトマン東進）も契約選手の1人です。アスリートとともに開催された「スポーツと食」トークイベントと、デサントの取り組みについて経営企画室の和賀翔太郎さんに伺いました。

Profile

和賀 翔太郎

Shotaro Waga

8ブランドにわたるスポーツウェアの製造販売を手掛ける株式会社デサントにて、経営企画を担当。自社のビジョン策定やCSRの活動、広報やイベントの企画運営に携わる。豊島区とは合同で、授業や放課後に「すこやかキッズスポーツ塾」を開催。スポーツ選手を講師に招くなど、さまざまなかたちでスポーツの楽しさを届けている。

スポーツをするうえで大切な、健やかな身体づくりのために――。

スポーツをする人にとって馴染み深い商品の製造・販売を行う株式会社デサントでは、SDGsに貢献する取り組みとして「健康な体と心」「環境」「モノづくり」の3つを軸にCSR活動を行っています。

「スポーツと食」と題して、豊島区に住む子どもたちとその保護者に向けて開催されたトークイベントもその取り組みの1つ。オフィス玄関ホールには多くの子どもたちと保護者の方々が集いました。

左から、味の素株式会社・栗原さん、オリンピックメダリスト・入江陵介選手、株式会社デサント所属で元競泳日本代表の末永さん

質問コーナーでは「どうすればオリンピックに出られますか？」「モチベーション管理は、どうするのがいいのか」など、たくさんの質問が寄せられました。

イベントメイン担当の経営企画室・直井さんと

ゲストスピーカーはロンドンオリンピック競泳種目で銀メダリストの入江選手。味の素株式会社との共同で実施されたこのイベントでは、トップアスリートである入江選手の子ども時代や、練習時の食事、食生活の変化による身体の変化、さらにはあたたかい食卓の重要性などその話題は多岐にわたります。

和賀「デサントでは、水泳や野球、ソフトボールやバレーボールなど、さまざまな競技のプロスポーツ選手と契約を結んでいます。『すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを』という企業理念に基づき、選手の言葉が持つ届ける力を生かそうと、今回のイベント開催に至りました」

イベント後半では、食にまつわる課題として挙げられるフードロスの問題のほか、デサントが取り組むリサイクル活動や和紙を活用した衣類開発についても紹介されました。

和賀「よりタフで長持ちする商品開発・ものづくりも、当社の取り組みの1つ。塩素に強く長持ちする水着の開発や、使わなくなった服の回収やリサイクルも行っています」

さらにデサントではイケ・サンパークで行われた「スクールオブアーバンスポーツ」を共催するなど、まちでの活動も広げています。

和賀「まだまだとしまのまちは、スポーツのイメージが薄いと感じています。公園が増え素敵に変化したまちを舞台に、スポーツを通してさらに活気づけていきたいです」

としまのまちのスポーツカルチャーは、さらなる盛り上がりを見せることでしょう。

【TeamDESCENTE】「入江陵介選手と楽しもう！“スポーツと食”スペシャルトークイベント」を開催しました

関連記事「入江陵介選手と楽しもう!“スポーツと食”スペシャルトークイベント」を開催

[NEWS]

Team DESCENTE の取り組み

デサントは、スポーツの原点である「体を動かす楽しさ」、「競い合う楽しさ」を提供することで、一人ひとりのいきいきとしたライフスタイルの創造に貢献します。

関連するSDGs

社会貢献活動をシェアし、新たなコラボレーションを生み出す。「第17回社会貢献活動見本市」

2023.03.18

#社会貢献活動 #コラボレーション #としまNPO推進協議会

OVERTURE

社会貢献活動を行うさまざまな団体が集い、交流する場。それが、社会貢献活動見本市です。3年ぶりのリアル開催となった今年は、全46団体から250人以上のメンバーが参加し、大きな盛り上がりを見せました。主催者であるとしまNPO推進協議会代表理事の柳田好史さんに地域のつながりについてお話を伺いました。

Profile

柳田 好史

Yoshifumi Yanagida

NPO法人としまNPO推進協議会代表理事。地域で社会貢献活動に取り組むNPO団体やボランティアグループ、企業に対して、セミナーや相談会、イベントを通じて支援を行う。その他にも、地域サロン「みんなのえんがわ池袋」の運営や、豊島区地域活動交流センター相談員、東京商工会議所豊島支部評議員など、豊島区を中心とした多様な事業に参画する。

さまざまな団体のパネル展示が所狭しと並び、活気に満ち溢れる会場――。

3月中旬、としま区民センターで開催された「第17回社会貢献活動見本市」。不登校・引きこもりの生徒に対して高校卒業のためのサポートを行う「高卒支援会」や、ひとり親家庭の子どもたちに向けた「子ども食堂」、駒込・巣鴨地区のガイドや文化講座を行う「としま案内人駒込・巣鴨」をはじめ、数多くの社会貢献団体が各ブースで活動を紹介しました。

柳田「4年ぶりのリアル開催、改めて参加者の熱量をひしひしと感じています。コロナ禍でも活動は継続してきましたが、やはり対面でのコミュニケーションには全く違った魅力がありますね」

柳田さんが代表理事を務めるとしまNPO推進協議会は、NPO団体などの中間支援を行う民間組織。豊島区でNPO法人やボランティアグループ、企業に対し、組織運営やネットワーク拡大など多方面のサポートを行っています。中でも重視しているのが、コラボレーションが生まれる「場づくり」です。

柳田「社会貢献活動見本市では毎回さまざまな団体の交流が生まれており、参加者には必ず『名刺を一箱持ってきてください』とお伝えするほど。各団体の皆様には、新たなコラボのチャンスとしてこの場を活用してほしいです」

としまNPO推進協議会は、動画配信のノウハウを生かし、豊島区制90周年においても実行委員会や企業実行委員会のオンライン配信を担当するなど、大活躍でした。普段から行政との距離が近く、各種団体と行政の橋渡し的役割も担っています。

柳田「行政と区民との距離の近さは、豊島区ならではの特徴。そして分け隔てなく受け入れるところがとしまのまちの良さです。これからも区民の方々が、率先して活動できるようサポートしていきたいです」

豊島区は「誰もが主役になれるまち」。そのそばには、舞台を整え、サポートしてくれる「主役」たちがいるのです。

関連するSDGs

国と言語を超えて、平和を語ろう。2030年、未来の社会を考える第3回国連を支える世界こども未来会議

2023.03.21

#こども未来国連会議 #国際交流 #ピースコミュニケーション

OVERTURE

みなさんは、「こども未来国連会議」をご存知でしょうか。それは、世界中の子どもたちが、生まれ育った場所や国に関係なく「2030年の世界に実現するためのアイデア」について語り合う“ピースコミュニケーションの場”です。2020年度よりスタートし、第3回目となる今年は7名の豊島区の子どもたちが参加。子どもたちの声や当日の様子をご紹介します。

「思いやり」「信頼」「協調」「希望」、そして「友情」――。

これらは子どもたちが考える「平和を実現するために必要だと思うことは何か？」という問に対する考えの一部です。第3回となった「世界こども未来会議」。その舞台は東京・有明にあるSMALL WORLDS TOKYOワールドラボです。内閣府・外務省・東京都が後援し、国連本部が認定するこの取り組みは、今回から正式に「国連を支える世界こども未来会議」の名を冠することとなりました。

豊島区からは、昨年夏に実施されたSDGsアイデアコンテスト受賞者2名と、9月に行われた豊島区こども未来国連会議の優秀チーム5名の合計7名が参加。浜松や大阪、国を越えて集まった子どもたちと10のグループに分かれ、さまざまな意見交流を行います。

髙原さん

望月さん

最初は、国内3エリア代表者によるプレゼンテーション。豊島区からは、SDGsアイデアコンテストで受賞した髙原さんと望月さんが「住み続けたくなる未来の豊島区」をテーマに、英語でプレゼンテーションしました。

髙原さん「私は『誰もがおいしい給食が食べられるまち』を実現するため、AIロボットが調理したり料理をドローンで配送したりする、SDGs給食センターを提案しました。緊張しましたが、自分が練習してきたことや言いたかったことが言えてよかったです」

望月さん「僕は街中への発電スポットの設置や、屋上の緑化推進などさまざまな視点から考えました。生まれた国や言語も異なる子どもたちの前で、英語で意見を発表・交換するのは貴重な体験でした」

その後行われたのは、グループごとのワークショップ。第3回となる今回のテーマは「SDGゴール16. 平和と公正をすべての人に〜平和な世界をつくるためには」。現代の社会情勢に触れながら平和実現のために大切なことについて子どもたちならではの視点で意見を出し合います。各グループが実現したい平和な未来の姿を用紙に描き、日・英どちらかの言語で発表。それぞれの発表後には参加者たちから心からの拍手が送られていました。終了後には子どもたちから「来年、もう1回参加したい」「外国人の人ともしっかり話ができるよう、外国語を学んでみたい」「みんなで同じテーマを話し合うのがおもしろかった」といった意見がありました。

同会場で見守っていた保護者の方々の方々からもあたたかい声が。

保護者「文化や国を超えて交流できる貴重な機会でした。緊張もあったと思いますが、海外の子とも語り合ったことが、これから成長するなかでもいい刺激になっていると思います」

このワークショップで論じられた内容は、国連本部にて開催される実際の会議に提出される予定です。2030年には大人になる、現在の子どもたち。国連を支える世界こども未来会議から得た経験が、大人になったときの彼らの未来につながっていくことを願っています。

関連するSDGs

「同じ釜の飯を食う」ことで生まれるコミュニティ。まちの公園からシェアをはじめる「防災訓練＆グリーンマルシェ」

2023.03.27

#児童遊園 #防災訓練 #大塚 #コミュニティ

OVERTURE

豊島区内には、小さな公園や児童遊園が点在しています。その1つである南大塚二丁目児童遊園で開催されたイベント、「防災訓練＆グリーンマルシェ」。区民が集い、防災かまどを囲みながら一緒にごはんを食しました。当イベントを主催したのは、大塚・巣鴨のシェアハウス「RYOZAN PARK」の運営に携わる竹沢徳剛さん。竹沢さんが目指すコミュニティのあり方や豊島区への思いなどをお話いただきました。

Profile

竹沢 徳剛

Takezawa Noritaka

大塚・巣鴨でシェアハウス「RYOZAN PARK」やシェアオフィスの運営に携わる。東日本大震災をきっかけに、アメリカから日本に帰国。多様な人々が安心して集える新しいコミュニティを提供しようと事業をスタートし、一昨年に実施した南大塚二丁目児童遊園でのマルシェイベントをはじめ、性別や世代、国籍を問わずに住民同士が交流できる場の創出に力を入れている。

世代・国籍・性別を問わず多様な人が交流するコミュニティをつくりたい――。

そう語るのは大塚・巣鴨を中心にシェアハウス・シェアオフィス事業に取り組む竹沢徳剛さん。この日、南大塚二丁目児童遊園で行われた「防災訓練＆グリーンマルシェ」には70人近い区民の方々が集まっていました。

竹沢「東京にあたたかい『村』をつくりたい、という想いが僕の活動の原動力。この公園の目の前のビルでも、来年から新たな支援事業を行う予定です。身近にある、だけど少し立ち寄りづらい。そんなイメージがあるまちの小さな公園を活用して、コミュニティを育めないかと思い、今回の企画を実施しました」

メインイベントは、ガールスカウト東京都第12団のメンバーたちが防災かまどでつくったスープと、ごはんを急速乾燥した防災備蓄品「アルファ化米」の試食。おいしい食事を頬張り、参加者たちの笑顔がこぼれます。

竹沢「火のパワーってすごくて、自然に人が集まるんですよね。今回、防災訓練も兼ねて防災かまどを活用したことはポイントの1つです。『同じ釜の飯を食べる』という言葉の通り、小難しい話は抜きにして、一緒に何かをすることで気持ちが通じ合うと思うんです」

ごはんの後には、おやつのマシュマロをあぶり、ガールスカウトの子どもたちもうれしそうな表情。会の終盤には、中小公園の活用方法をみんなで考える「第2回井戸端会議」を同時開催。来年1月に収穫祭を行えるよう、公園を「育てる場所」にしていこうという取り組みが動き出しました。

竹沢「としまのいいところは肩肘張っておらず、かっこつけていないところ。今日みたいに、女性が活躍し、まちの旧住民も新住民も関係なく交流しあえる。そんな風景が、当たり前になっていく未来をつくっていきたいですね」

人と人のつなぎ役として活動する竹沢さん。多様性を受け入れるコミュニティの地盤はすでにとしまのまちに生まれはじめています。

NEWS

「働く」「学ぶ」「暮らす」「育てる」の新しい形を提案する、都内唯一のコミュニティ「RYOZAN PARK」

Ryozan Parkは、オフィス、レジデンス、スクールを三つの柱とし、より豊かな人生はシェアからはじまる、という哲学をもとに、人々の温もりとエネルギーが交差する共同体として生まれました。

関連するSDGs

としまに吹くイスラムの風。異文化を大切にするまちにする与えあい、交わす挨拶が

2023.03.31

#イスラム教 #マスジド大塚 #ビリヤニ #RYOZAN PARK

OVERTURE

大塚には、イスラム教の礼拝堂であるモスク・マスジド大塚があります。この地を拠点に活動しているのが、日本イスラーム文化センター会長のアキールさん。多様性を受け入れるコミュニティ・RYOZAN PARKと連携し地域の方たちを招き、イスラム地方の伝統料理でもてなしました。「長年実現させたかった」と話すアキールさんに当イベントに込めた想いを伺いました。

Profile

シディキ・アキール

日本イスラーム文化センター会長。在日ムスリム。1963年に来日して大学で学んだ後、パキスタンに戻り会社員として働く。ふたたび1982年に来日し、以来40年近く大塚に在住。現在は大塚にある「マスジド大塚」を運営している。

イスラームの教えの1つ「挨拶をせよ。人々に食事を与えよ」――。

とある平日の夜、RYOZAN PARK大塚はイスラム文化の交流イベント「マスジド大塚主催夕食交流会」の場として、大勢の人で賑わっていました。集まったのは地元・大塚の方やRYOZAN PARKの関係者の方など100名近く。性別・人種・年齢・思想・宗教の違いを超えたさまざまな人たちが言葉を交わしています。冒頭の挨拶で、主催者のアキールさんは喜びの言葉を語りました。

アキール「私が日本に来てから、約60年の時が経ちました。食事会を何度も開催していましたが、ずっとムスリム（イスラム教徒）内でのつながりしか持てずにいました。地域の方たちと交流を持つというのは、私の夢だったのです」

誰一人取り残さず、多様性に寛容なまちを実現するためには、宗教も含めた多様な文化や価値観への理解が欠かせません。アキールさんの想いに共感した人たちが動き始め、この夕食会が実現しました。当日ふるまわれたメニューは、パキスタンやインドでよく食べられる炊き込みご飯の「ビリヤニ」。材料となる牛肉はマスジド大塚が提供したもので、イスラム法上で食べることが許されているハラール国産牛で、もちろん、ムスリム以外の人も一緒に食べることができます。

アキール「イスラム教の教えに、『挨拶をせよ。人々に食事を与えよ』という意味のものがあります。今回はその教えのもとみんなで集う機会になりました」

今後も定期的にイベントを開催し、地域の人たちとの交流を深めていきたいと語るアキームさん。参加費や実施された募金は、その全額がトルコ・シリア大地震への支援に充てられます。

アキール「日本人の国民性は、イスラムの教えに近いと感じています。例えば勤勉なところ、正直なところ。その国民性が大好きです。外国人だとか、日本人だとかに関係なく、私たちはみんな兄弟。一緒にご飯を食べれば、仲良くなれると信じています」

ともに話し、食事をする機会が生まれた今回のイベント。地域の人たちにとってもイスラム文化に触れる貴重な機会となっていくことでしょう。

関連するSDGs

優しい気持ちのバトンを繋ぐ。フラワーショップ「花ゆるり」心も体もほっとする

2023.09.22

#花 #ロス削減 #オーガニック

[OVERTURE]

2022年8月、東長崎にオープンした「花ゆるり」。【優しい】をテーマにしたフラワーショップで、フラワーロス削減に力を入れています。さらに、取り扱っているのは花だけでなく「体に優しい」野菜や食品の販売も。お店の取り組みについて、店長の藤春さんと、経営に携わる株式会社Wisteriaの松村さんにお話を伺いました。

Profile

花ゆるり

店名の由来は、心も体も『ゆるり』と和むお店にしたいという想いから。店長の藤春さんがこだわりの花農家から仕入れる、新鮮で色鮮やかな花が揃う。姉妹店である広尾のレストラン「エピキュール」との繋がりをもとに、オーガニック・グルテンフリーの食品なども販売している。

花には、たしかな優しさがこもる――。

誰かにプレゼントするとき、自分で育てるとき、故人に供えるとき……どんな時も花は、何かを想う温かな気持ちとともにあります。

藤春「『パートナーにプレゼントして、仲直りできた』であったり、『元気に育っているよ』であったり、お客様から花の“その後”を教えていただけるのが嬉しいです。とても温かい豊島区の人たちの優しさが、花を通じてさらに大きくなり、繋がっていく実感があります」

そんな花を無駄にすることがないよう、花ゆるりではフラワーロス削減に力を入れています。「1 day flower」は、満開で日持ちしない花を、本来の半額程度の金額で販売するもの。「好きな花を手ごろに購入できる」「今日お客さんが来られるので助かる」と好評です。さらに、お店で新たにチャレンジしているのが「花びら染め」。布で花を巻き、蒸して染色するというもので、染めた布を花の包装に使ったり、ワークショップを開催したりといった活用を検討中なんだとか。

1 day flower

そのほかにも、テーマの「優しい」に沿った取り組みとして、体をいたわる食品の販売を行っています。

松村「新潟の自社工場で作るオリジナルのグルテンフリーの米粉麺や、農薬・化学肥料不使用のコーヒーを販売しています。さらに、群馬県邑楽町（おうらまち）から届く旬の無農薬野菜も人気。植物の魅力を花・果実で余すところなく楽しんでいただきたいです」

リピーターのお客さんが多く、取材中にも、常連の方々がお店を訪れ、会話を楽しんでいらっしゃいました。

店長の藤春さんによる、花束アレンジメントの様子

2023年8月で開店1周年を迎えた花ゆるり。今後に向けた展望を伺いました。

藤春「花は、見るだけでほっと温かい気持ちになれるもの。購入しなくても、ただ眺めに来ていただくだけで良いんです。買い物帰りや学校、お仕事の帰りに、気軽に立ち寄っていただけるお店になりたいですね」

“優しさのリレー”の、起点となるように。そしてその輪が、どんどん広がるように。誰かを想う温かい気持ちが芽生えてすくすくと育ち、たくさんの花となって、としまのまちに彩りを与えます。

[NEWS]

フラワーショップ「花ゆるり」

店名の由来は、心も体も『ゆるり』と和むお店にしたいという想いから。店長の藤春さんがこだわりの花農家から仕入れる、新鮮で色鮮やかな花が揃う。姉妹店である広尾のレストラン「エピキュール」との繋がりをもとに、オーガニック・グルテンフリーの食品なども販売している。

関連するSDGs

メタバースで体験する「仮想病院」とは？

100年時代を元気に暮らす　豊島区高齢者クラブ連合会

2023.09.26

#高齢者 #メタバース #福祉 #医療

OVERTURE

豊島区在住の60歳前後以上の方々が集まる、「豊島区高齢者クラブ連合会」。約4,300名が所属する当クラブにある8地区の指導者向け講習会が開催されました。今回のテーマは「仮想空間の病院」。メタバース空間における医療の在り方と活用について講演と体験会が開かれました。イベントと高齢者クラブの活動について会長の外山さんにお話を伺いました。

Profile

外山 克己

Katsumi TOYAMA

2017年より豊島区高齢者クラブ第13代目会長を務める。「豊島区に元気な高齢者を増やす」ことを目的に、高齢者クラブではさまざまな取り組みを行っている。50年以上豊島区に住み、まちの変化を見守ってきた。特に変化が印象的だと感じるのは池袋西口公園(グローバルリング)。

豊島区は、日本の市区町村のなかでも人口密度が最上位レベルであり、一人暮らしの高齢者の割合も高い自治体です。そんな豊島区では「日本一高齢者にやさしいまち」を目指してまちづくりを行っています。

豊島区高齢者クラブ連合会は、イキイキとした元気なまちの高齢者の皆さんが集まります。年間20件近くのイベントを自主的に企画・運営しており、東京パラリンピックで有名になった「ボッチャ」や「輪投げ」のほか、「芸能まつり」「作品展」など健康やや文化を意識したさまざまなイベント・活動を行っています。

外山「所属している会員の皆さんは平均80歳くらいですが、会員でない60～70歳ぐらいの方は、まだまだ働いている方も多いです。時代の変化なども踏まえて、各地区の指導者に対して指導者講習会を行っています。これまでも関心が高い、フレイルや認知症をテーマとした講習会なども行ってきました」

今回の講演の主題は、健やかな暮らしに欠かせない「医療」。順天堂大学とIBMが共同で開発を進める、仮想空間における病院「順天堂バーチャルホスピタル」についての講演が行われました。

3D空間に本物そっくりに再現されたバーチャルホスピタル。アバターを操作し自由に探索することが可能

3D治療解説動画。どのような治療を受けるのか事前に確認すること患者の不安軽減に

面会アプリではチャットを活用した会話を行うことも

クラブ参加者たちはデモンストレーションに釘付け。講演の後には、日本IBM株式会社の協力のもと、体験会を開催。体験会後には素朴な疑問から、前向きに発展を期待する声まで数多くの声が寄せられていました。

「病院内を歩いて回るのがしんどいため、移動がなくて楽だと感じた」
「複雑な治療方法について、動画で説明されることで頭に入りやすかった」
「操作が難しいとも感じるが、ゲーム感覚で面白い」「もっと制度が整って、実際の医療に活かせるようになってほしい」

バーチャルホスピタルは引き続き開発段階ではありますが、利用者の意見を踏まえたさらなる充実化が期待されます。

外山「今回のように会場で体験してもらう形式の講習会は今回がはじめて。一人でも元気に暮らしていける高齢者の方が多いまちになっていけるといいなと思います」

変わりゆくまちの礎を作り上げてきたクラブのみなさん。現代の最新技術に積極的に関わっていく姿勢が印象的なイベントとなりました。

関連するSDGs